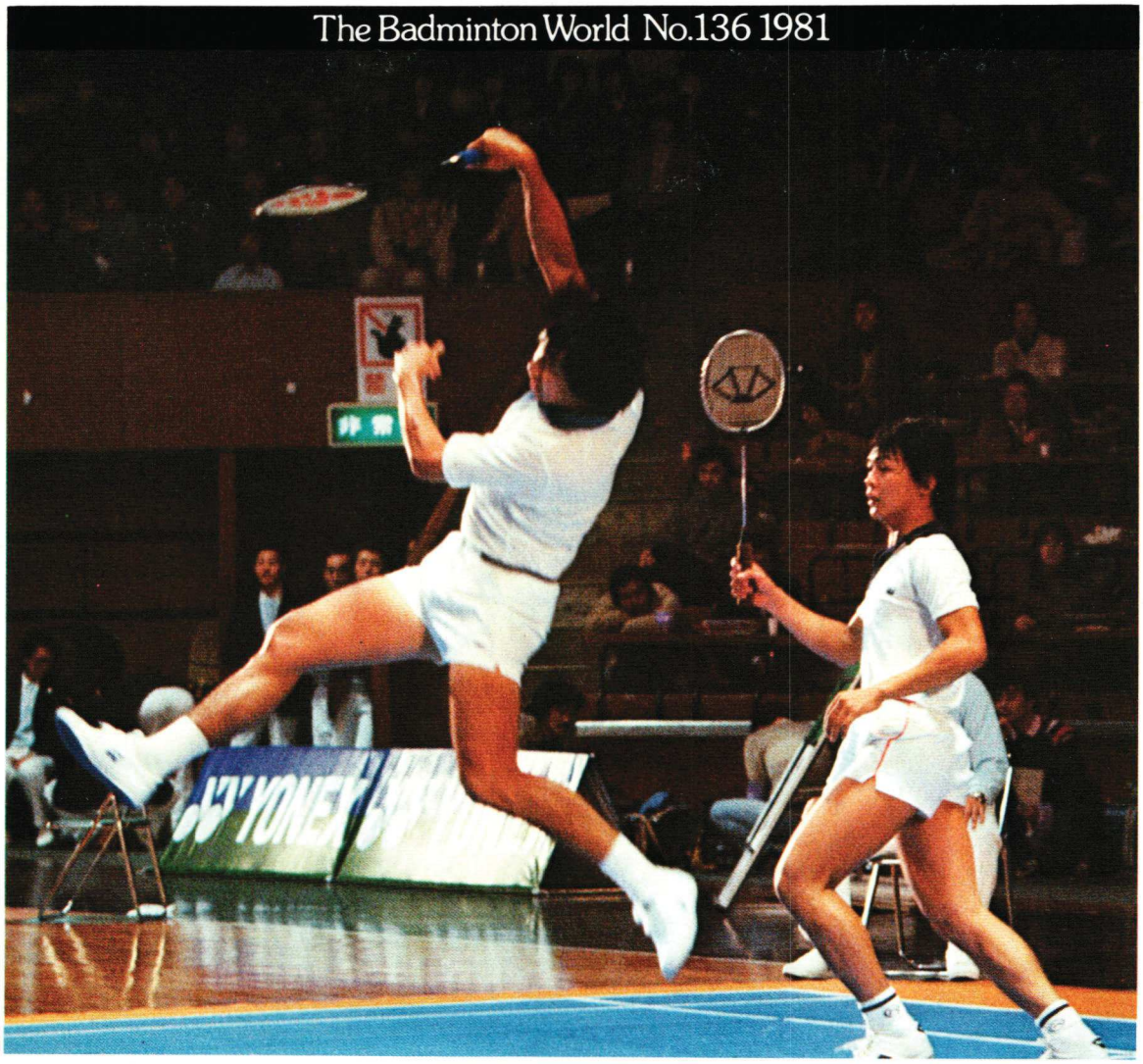
昭和56年 2 月15日発行（毎月 1 回15日発行 通巻136 号） 昭和55年10月 9 日第三種郵便物認可

バドミントン界

2

The Badminton World No.136 1981



SIMPLE is BEST

『デザインはシンプルでもいい……，本当に価値あるものを長く着たい』

英国気質を伝える
カールトン・スポーツウェア

クラシックコレクション



carlton

That's the name of the game



9203　女子半袖シャツ（綿100%）
￥9,500
9201　女子半袖シャツ（綿43%，ポリエステル57%）￥9,800
9260　女子ショートパンツ（白・紺）
￥9,800

9281　女子巻スカート（白・紺）
￥12,500
9102　男子半袖シャツ（綿100%）
￥11,500
9120　男子ショートパンツ（白・紺）
￥11,500





9350　スポーツスーツ（上下）
￥29,000

METRO　総輸入元　メトロレジャー株式会社　〒101　東京都千代田区外神田5-6-4　TEL.(03)833-3661(代)

やったゾ2連覇



日本の期待を一身に受けた徳田(左)・米倉

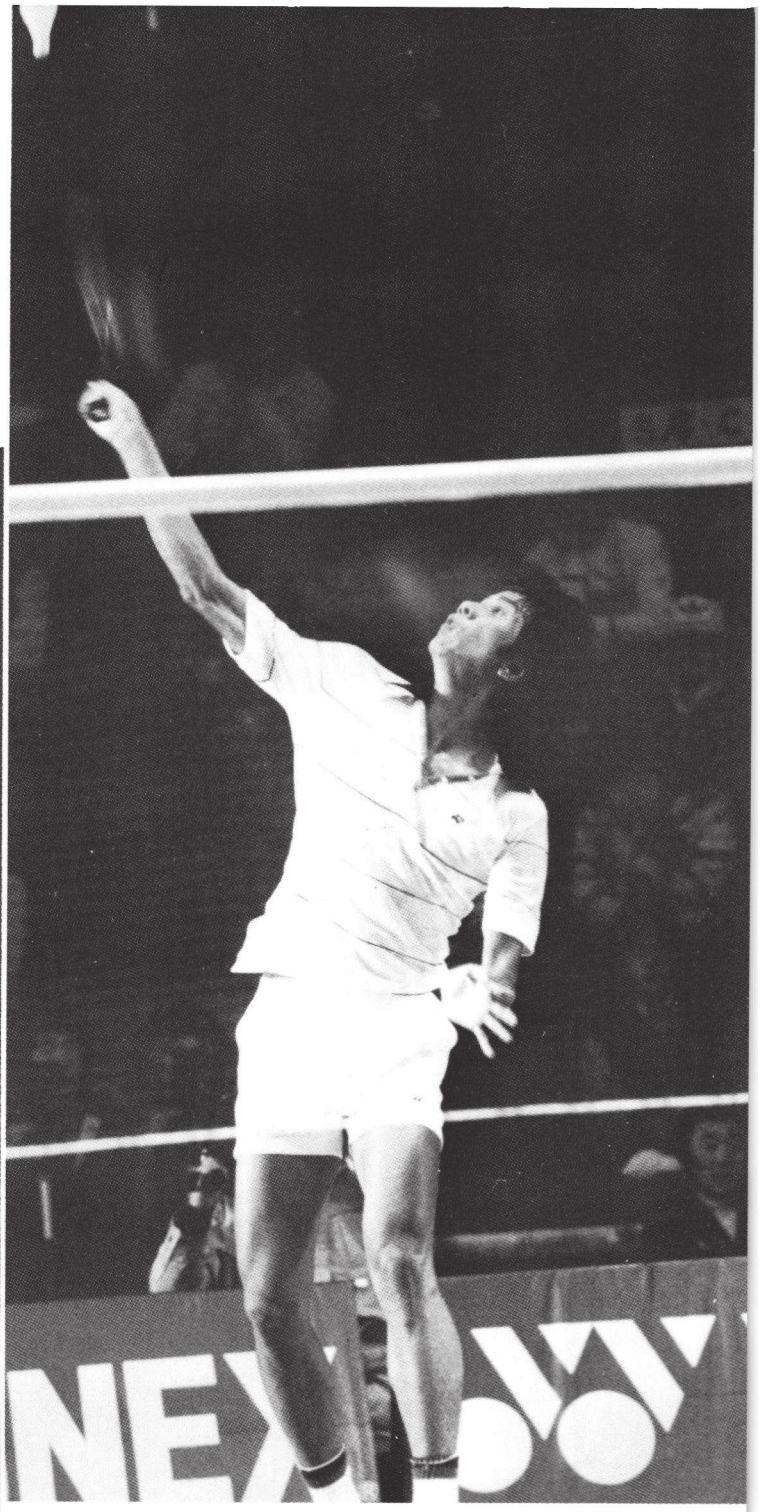
ジャパンオープン'81



着実に力をつけた近藤(左)・高田

▼“金太郎さん”のようだった黄善愛

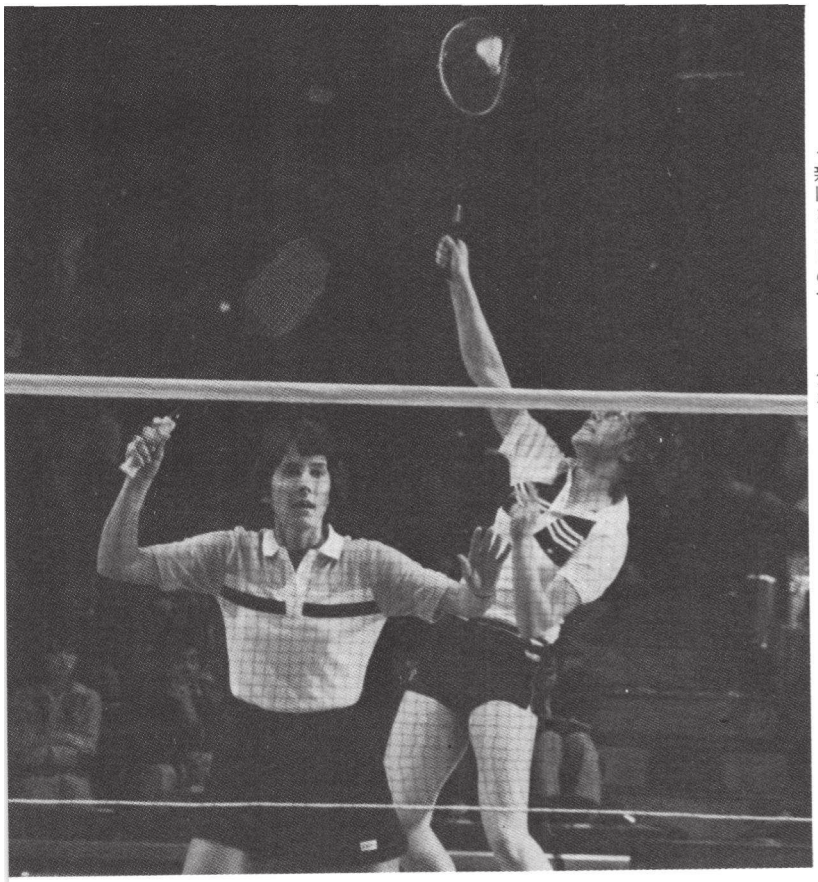




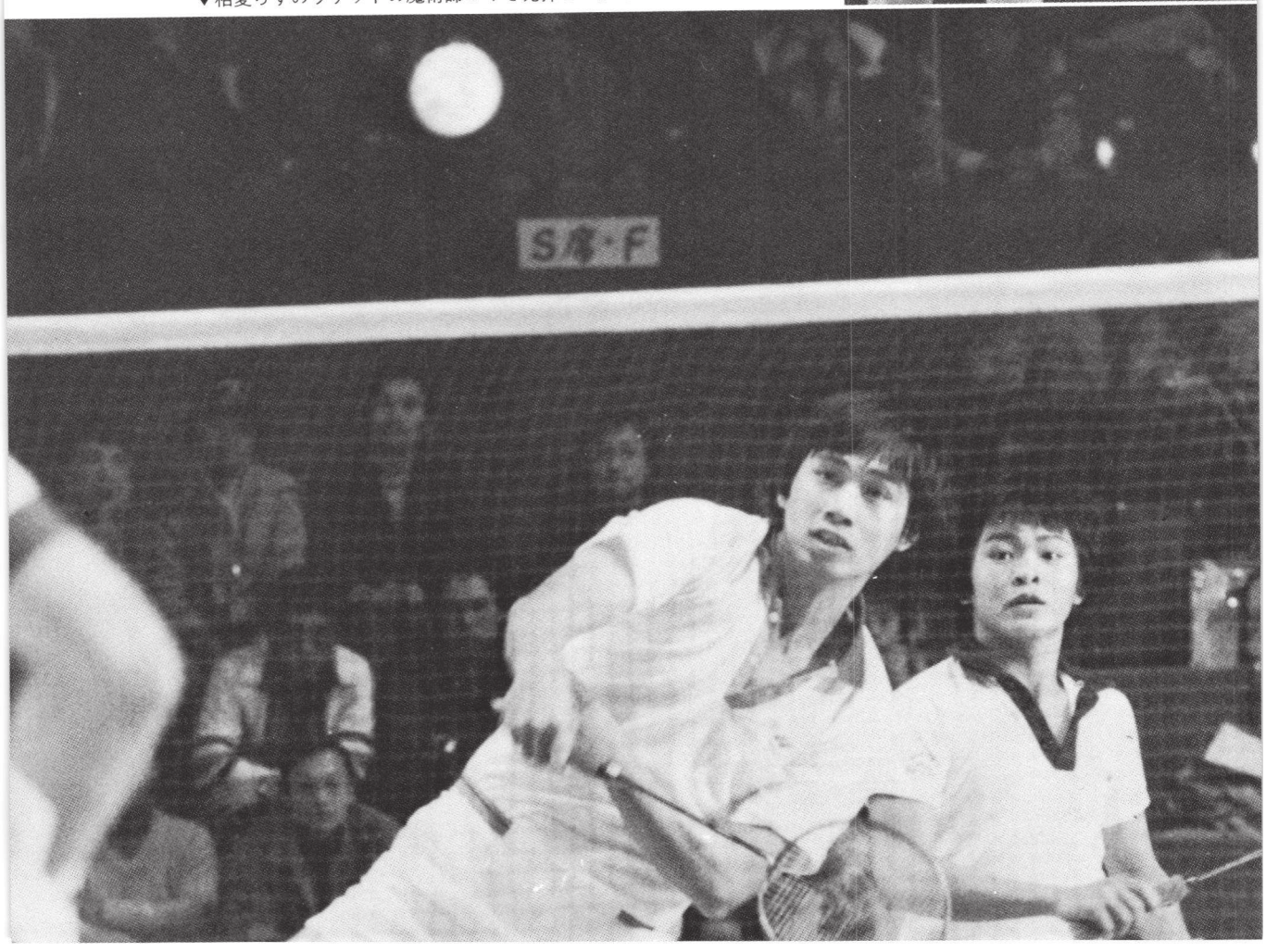
▲タメ息を誘うハルトノの大きなフオーム



▶細い体がムチのようにしなったカーター



◀新旧コンビのサットン(左)・クラーク



▼相変らずのラケットの魔術師ぶりを発揮したクリスチャン(前)・ポンゴ

勝利へひた走る鮮烈のプロショップ

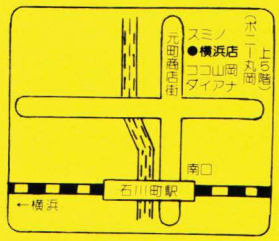
ラケットショップ元町®

ご要望があればどこへでも、
最高のスタッフが……!!

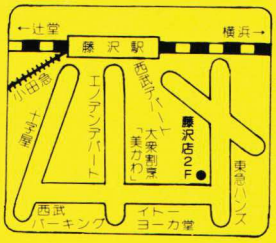
とんで! まわって! コーチして!!

無料巡回コーチング・サービス

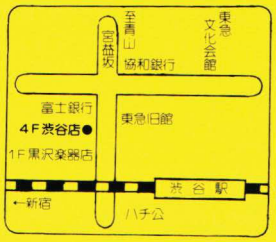




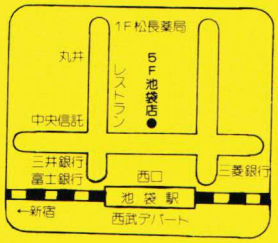
●横浜店
〒231-0023
横浜市中区山下町70
5F テニス・フロア
☎045-651-2020
4F バドミントン・フロア
☎045-662-9857



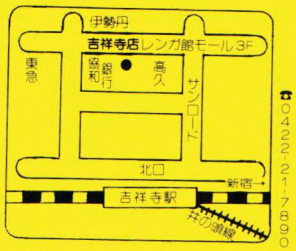
●藤沢店
〒251-0052
藤沢市藤沢1-3-1
テニス・バドミントン
☎0466-26-2552



●渋谷店
〒150-0043
渋谷区道玄坂2-29-5
バドミントン・プロショップ
☎03-4007-3390



●池袋店
〒171-0021
豊島区西池袋1-28-1
バドミントン・プロショップ
☎03-3981-0215



●吉祥寺店
〒180-0004
武蔵野市吉祥寺本町1-1-3
バドミントン・プロショップ
☎0422-21-7890



●町田店
〒194-0013
町田市原町田4-5-8
バドミントンプロショップ
☎042-728-6050

バドミントン 2

❶ グラフ
ジャパン・オープン'81から

❻ ジャパン・オープン'81〈男子シングルス〉
〝神様〟ハルトノが栄冠

❽ ジャパン・オープン'81〈女子シングルス〉
伏兵 黄善愛が飛び出す

❿ ジャパン・オープン'81〈男子ダブルス〉
クリスチャン組、華麗な舞い

⓬ ジャパン・オープン'81〈女子ダブルス〉
切り札、徳田・米倉が2連覇

⓮ 連載／銭谷欽治
チャンピオンをめざせ

⓰ 新連載／飯野佳孝
テクニックをぬすめ

⓲ われらのクラブ
苦節10年を乗り越えて

㉜ 第2回日本リーグから
カワサキ〝世紀の〟大逆転

㉞ 第2回日本リーグから
電電東京、執念の初優勝

㊱ メディカル・アドバイス／四谷健二郎
深呼吸する

㊳ 日英親善大会
大差で日本に軍配

㊶ 〝カワサキ〟装いを一新
社名変更と新社屋の誕生

㊷ 特別寄稿／葦原健身
選手育成 熊本方式の実態

㊺ グラフ
ジャパン・オープン'81から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室　長谷部憲和
◇今月の表紙＝ジャパン・オープン'81でみごとなプレーをみせたクリスチャン、リュース・ポンゴ組　撮影＝赤星三樹

ノ”が栄冠



ハルトノ16年ぶりの勇姿

▽男子シングルス1回戦

アクラポーン（T）	2	15—18 16	9—15	15—1
黄　建通（CT）	1			
飯野	2	15—7	10—15	15—12
朴　柱奉（K）	1			
カールソン（S）	2	15—15	12—5	
R・シィディック（M）	0			
劉　漢嘉（CT）	2	15—10	18—13	
西山	0			
キルストローム（S）	2	15—3	15—5	
李　在福（K）	0			
ジョリー（E）	2	15—9	15—8	
ルエンペチャラポーン（T）	0			

▽同2回戦

権藤	2	15—4	11—15	15—8
J・シィディック（M）	0			
デルフス（D）	2	15—7	15—8	
アクラポーン	0			
リュースポンゴ（IN）	2	15—3	15—3	
飯野	0			
プラカシュ（I）	2	15—9	15—3	
カールソン	0			
ハンセン（D）	2	15—5	15—4	
劉　漢嘉	0			
キルストローム	2	15—8	15—11	8—15
銭谷	1			

▽同準々決勝

ジョリー（E）	2	15—11	17—16	
土田	0			
ハルトノ（IN）	2	15—0	15—2	
権藤	0			
クルニアウ（IN）	2	15—7	15—9	
デルフス	0			
リュースポンゴ	2	15—9	15—7	7—15
プラカシュ	1			
ハンセン	2	15—5	15—10	13—15
キルストローム	1			
ハルトノ	2	15—5	15—3	
ジョリー	0			

▽同準決勝

リュースポンゴ	2	15—5	15—7
クルニアウ	0		
ハルトノ	2	9—0	15—0
ハンセン	0		

（ハンセン腰を捻ったため途中棄権）

▽同決勝

ハルトノ	2	15—9	15—8
リュースポンゴ	0		

（ハルトノは初優勝）

〈国名表示〉D＝デンマーク　E＝イギリス　IN＝インドネシア　T＝タイ　M＝マレーシア　CT＝台湾　K＝韓国　I＝インド

●男子シングルス

神様“ハルト

インドネシアの〝底力〟見たり!!

ハルトノが、久方ぶりに日本にその勇姿を現わし、〝神様の真髄〟を披露してくれた。

初めてハルトノが来日したのは16歳のまだ少年期、オールジャパンに出場して準決勝で小島一平に敗れてベスト4だった。

その翌年には、「見違えるような進歩で、手がつけられないくらいになっていた」（小島）ハルトノは全英を制し、以来16年間世界のトップの座を占めている。

その間、何度かの来日はあっても、コート上でのプレーを見ることはできなかった。

バドミントンファンにとっては、待ちに待ったハルトノの出場だった。



腰を捻ったハンセン

そのハルトノが、ややスピード感、体力的な衰えがあるとはいえ、完璧ともいえるレシーブ、選球眼、読みの奥さを発揮、ファンを釘づけに魅了した。

イギリスのジョリーも、デンマークのM・F・ハンセンも、その名声に震え上がったように手も足も出ないありさまだった。

特に、デルフスの後継者として実績もあるあのハンセンが、ハルトノのストレートに急降下するドロップショット、クロススマッシュに一歩も動けずといった場面もしばしば、途中ハルトノの絶妙な配球で腰を捻って退場するまで、何と24ポイントを取られる間に、3度しかサービス権を奪えないのは驚きであった。

そしてインドネシア勢は、ベスト4にポンゴ、クルニアウを送り込んで、まざまざとその底力を感じさせた。

日本でもお馴染みになったポンゴは、その驚異的なスタミナに加え、スピード、攻撃力を備えつつあり、まさに〝インドネシアの星〟といったところ。

インドネシアの底辺の恐しさを感じさせたのがクルニアウ。

デルフスとの第1ゲーム、1—7の劣勢にありながら、上がったらスマッシュ、ネット前は丁寧にネットへ置く基本的パターンの繰り返し。



野性味タップリなクルニアウ

ネット前へよく脚が伸び、全部フォアで回り込む力強さ、決して巧くはないがこの執拗な繰り返しに、さすがのデルフスも根負けした格好だった。

このクルニアウのプレーに、単調ではあるが、シングルスの基本、そしてインドネシアの徹底した若手教育を見る思いがあった。

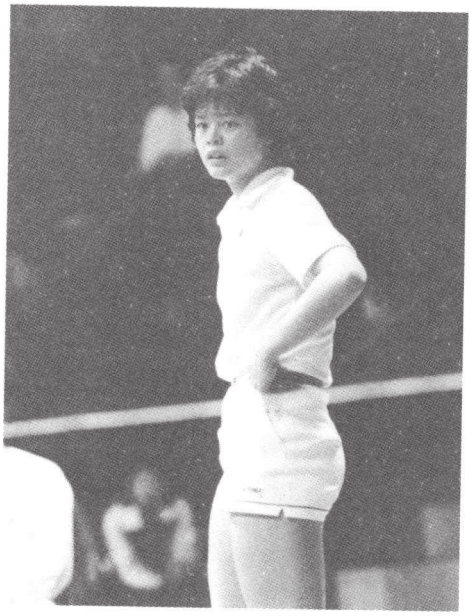
日本期待の銭谷はキールストロムに、土田はジョリーに惜敗し世界の壁の厚さを感じさせ、インドネシアの強さだけが浮き彫りにされていた。

愛〃 飛び出す

▽女子シングルス1回戦

黄 善愛（K） 2 11 11 6 3 0 ケリー（U）
ウェブスター（E） 2 11 11 1 2 0 東海林
ラーセン（D） 2 11 7 11 9 2 1 陳 玉珍（CT）
カーター（C） 2 11 6 3 0 クラーク（E）
高峰 2 11 2 4 0 チャップマン（E）
石田 2 11 8 6 0 ティ（IN）ダマヤン
金 練子（K） 2 11 7 11 5 11 1 ビューセコム（H）

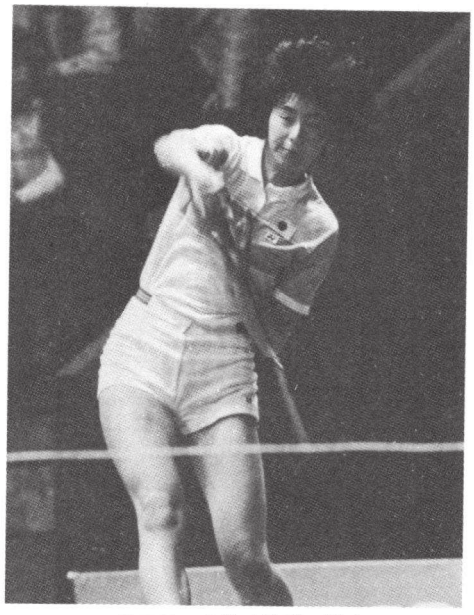
リードビーター（E） 2 11 3 4 11 3 1 近藤
原口 2 11 1 4 0 ブルーマー（S）
徳田 2 11 7 5 11 1 劉 秀鷺（CT）
ソーレン（D） 2 11 10 4 8 12 1 端
陣内 2 11 8 3 0 カートン（U）
黄 善愛 2 3 11 5 4 11 1 湯木
ラーセン 2 11 7 7 0 ウェブスター



「どうなってんのかな」北田

▽同2回戦

カーター 2 11 6 4 0 高峰
米倉 2 11 6 4 0 石田
金 練子 2 12 10 9 0 北田
リードビーター 2 11 7 1 0 原口
徳田 2 11 1 5 0 ソーレン
陣内 2 11 5 1 0 ベラワティ（IN）
黄 善愛 2 11 7 8 0 ラーセン
カーター 2 11 0 7 12 1 米倉



ベラワティを破る殊勲の陣内

▽同準々決勝

金 練子 2 11 5 0 リードビーター
徳田 2 11 1 5 0 陣内
黄 善愛 2 11 3 2 0 カーター
徳田 2 11 9 8 11 7 1 金 練子
黄 善愛 2 11 7 10 12 10 1 徳田

▽同準決勝

▽同決勝

（黄善愛は初優勝）

〈国名表示〉U＝アメリカ　E＝イギリス　H＝オランダ　IN＝インドネシア　K＝韓国　CT＝台湾　C＝カナダ　D＝デンマーク　S＝スイス

●女子シングルス

伏兵〝黄善

ベラワティ降し、陣内〝大物の相〟

1回戦は順当なスタートをしたものの、シード選手が現われる2回戦から波乱に富んだ展開になった。

第1シードの湯木、第2シードのベラワティ、第3シードの北田が、次から次と姿を消していったのだ。

湯木は、第1ゲームを簡単に先取しながら、黄の力強いプレーに次第に手を焼き、集中力を失っていった。

全日本チャンピオンの北田は、これも韓国の金に惜敗。

第1ゲームは、7―1、9―2、と大きくリードを奪いながら、金の速くて力強いクリアー、拾いまくる脚力を完全にもて余ましてしまった。

インドネシアの女王・ベラワティに至っては、まったく試合にならないお粗末さ、これがあのベラワティかと思われるようなミスの山。

殊勲の陣内は、もちろんケレン味のない持ち味を出して、将来の大器を約束する金星を挙げた。

第4シードの米倉は、初戦の石田を一蹴したものの、準々決勝のカーターとの試合では、昨年の世界選手権での敗れた苦手意識が作用したのか、第1ゲームを先取しても勝ちムードに乗り切れず、第2ゲームは1度もリードを奪えないまま落とし、ファイナルは7度のサービス権をポイントに結びつけることができず敗退。

期待の近藤も、イギリスの新鋭リードビーターの粘りに手こずり、日本のシングルス陣は壊滅状態、徳田一人がその重荷を背負うことになった。

試合が進むにつれ、徳田対韓国勢の決戦ムード。

ユ杯保持国のメンツにかけても負けられない徳田は、まず高校2年生の金練子と対戦。

決勝進出を賭けて、ゲームはファイナルにもつれ込み、逆のブロックでは黄善愛の決勝進出が決定し、徳田にとっては非常に苦しい立場に立たされた。

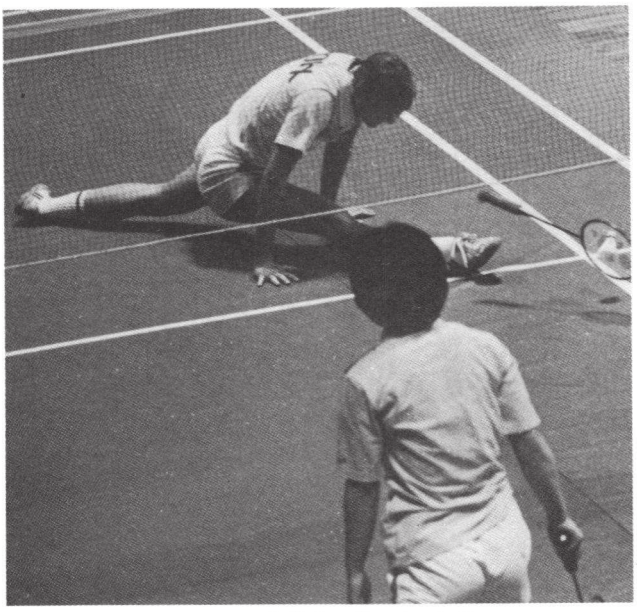
しかも、ファイナルでは徳田のコントロールが微妙に乱れ出し、1―7の大ピンチ。

が、数度のサービス権の移動を繰り返してから、一挙に6ポイントを速取、若い金の動揺を突いて逆転に成功、意地を見せた徳田だった。

決勝は、一進一退のシーソーゲームとなり大一番。

第1ゲームは、黄が終盤に逆転して先取すれば、第2ゲームは徳田がひっくり返してタイに持ち込み、まったく予断を許さない白熱したゲーム内容。

ファイナルも、追いつ追われつの長いラリーの応酬が続いたが、6オールあたりから徳田に疲れが目立つようになり、黄の攻撃チャンスが多くなって、遂に韓国旋風吹き荒れたこの種目の栄冠は黄善愛の頭上に輝くこととなった。



ラーセンも黄善愛に「マイッタ!!」

東京・1／23～25　ジャパンオープン'81

、華麗な舞い

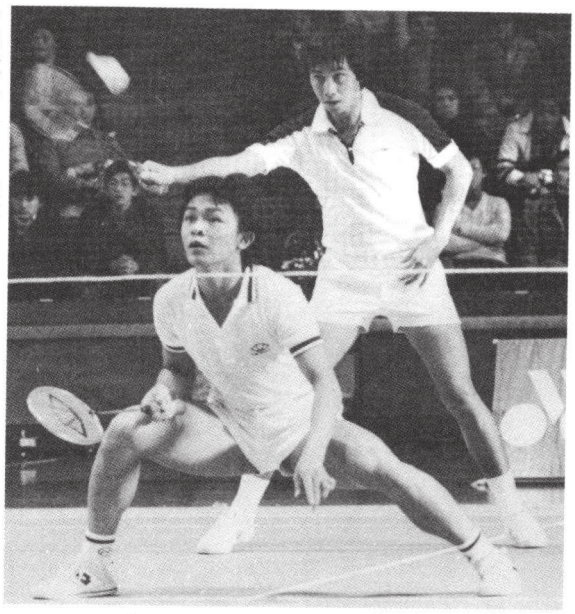
▽男子ダブルス1回戦

飯野／土田　2（15 15／1 1）0　鐘廖／宗烈（CT）

スチーブンス、ジョリー（E）　2（15 15／10 9）0　李在福／李得春（K）

ローム、カールソン（S）　2（15 15／7 8）0　梱野／尾山西

クリスチャン、リユースポンゴ（IN）　2（15 15／8 8）0　今泉／米沢



楽々としたクリスチャンのレシーブ

デルフス（D）、プラカシュ　2（15 15／5 11）0　池田／尾崎

ウドム、シィディ（T）　2（15 15／13 8）0　大場／所田

辻／長谷川　2（15 15／12 9）0　神戸／高岡

チュンチュン、ワジュディ（IN）　2（15 15／3 4）0　スチーブンス、ジョリー／飯野／土田

▽同2回戦

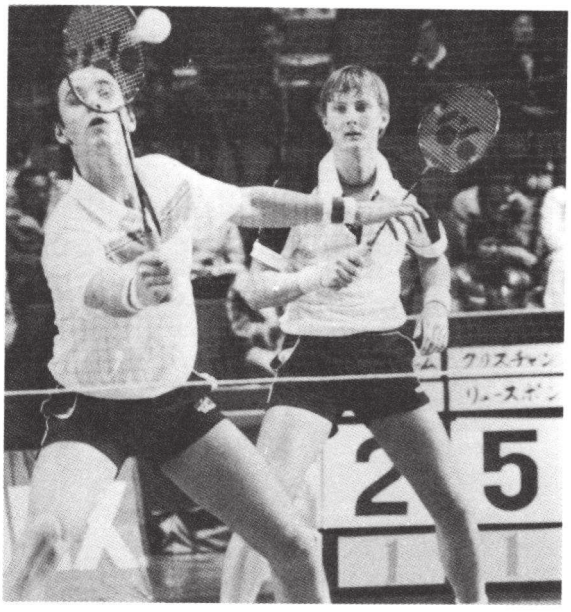
▽同準決勝

クリスチャン、リユースポンゴ　2（15 15 16／9 5 18）1　飯野／土田

チュンチュン、ワジュディ　2（15 15／7 1）0　辻／長谷川

デルフス、プラカシュ　2（15 15 13／6 1 18）1　大場／所田

キルストローム、カールソン　2（15 15 6／7 8 15）1



スウェーデンのキールストローム・カールソン組

▽同決勝

クリスチャン、リユースポンゴ　2（15 15／3 4）0　デルフス、プラカシュ

デルフス、プラカシュ　2（15 15／10 5）0　チュンチュン、ワジュディ

（クリスチャン組は初優勝）

〈国名表示〉D＝デンマーク　E＝イギリス　IN＝インドネシア　T＝タイ　M＝マレーシア　CT＝台湾　K＝韓国　I＝インド

●男子ダブルス

クリスチャン組

飯野・土田組〝世界の実力〟を立証

初来日の世界チャンピオン、チュンチュン・ワジュディ組が注目の的となったが、準決勝のデルフス・プラカシュ組のふとこの深いレシーブに、調子の出ぬまま敗れ去った。

チュンチュンの豪快なジャンプスマッシュを見にきた観衆はガッカリの表情。

シーズンに入って間がなく、練習不足ということだが、ぜひ体調十分のチュンチュンを日本で見たいものだ。

代って、といっては失礼だろうか、これもインドネシアの至宝クリスチャンが、若手ポンゴと組んで、とても人間業とは思えぬ華麗なラケットさばきを見せてくれた。

ゲームは、2回戦のキールストロム・カールソン組、準決勝の飯野・土田組に第1ゲームを先取され苦戦に思われたが、動きは終始余裕タップリ、ミスをしても笑顔を見せるユトリが残されていた。

特筆すべきクリスチャンのプレーは二つ。

第一は、レシーブの正確さ。

ゲームの後半になればなるほど、ラリーが続けば続くほど、相手のスマッシュをシングルスとダブルスラインのアレイの四角の部分を突いてくるのだ。

攻撃しているはずが、次第に苦しくなってくるのが判る。

しかも、速さを伴なっているのだから、徐々にスマッシュは浮いて、逆にカウンターをくらう羽目になってしまう。

レシーブしながら、クリスチャンが攻撃しているように見えるのは目の錯覚ではないのだ。

第二に、読みの奥さによる余裕ある動きとラケットさばき。

この一連の動きが、どんなコースの球にも、一歩で追いつき決して必死でプレーしているとは映らない。

経験と研究からとは考えられるが、経験だけでは体得できない〝天性〟のものを感じずにはいられないのだ。

ネット前の処理は、まるで曲芸のような軽やかさ、レシーブはゲームを楽しんでさえいるように、タメ息を誘うプレーであった。

ポンゴは、このクリスチャンの存在に大船に乗ったように、伸び伸びとプレーし、チャンドラに替ってこのコンビが定着すると、インドネシアにまた新しい魅力が増えることになる。

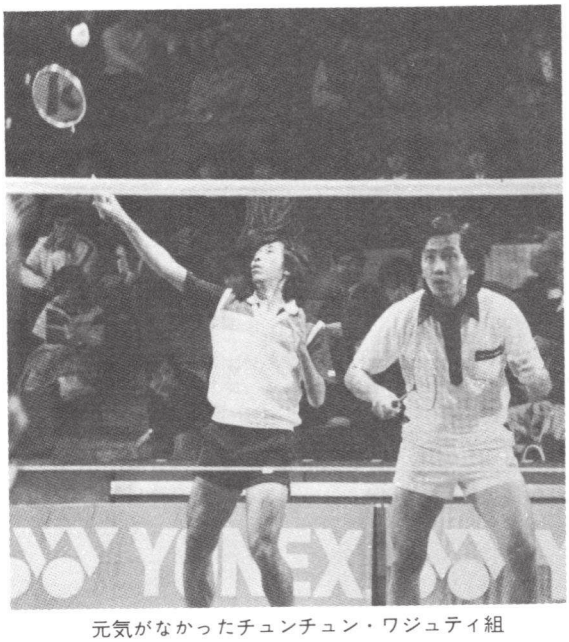
この優勝ペアに、一番肉迫したのが日本の飯野・土田組。

第1ゲームのスピードは、優勝ペアのそれを完全に上回り、あわやの期待を抱かせた。

さすがに、第2ゲーム以降は球筋を読まれてしまったが、世界のトップにその実力があることを実証してくれた。

特に、速い攻撃が回転すると、インドネシアペアといえどもうかうかできないほどの威力。

飯野のカミソリスマッシュ、土田のクロススマッシュは、今や脂が乗り切って虎視たんたんと世界を狙う絶好のポジションをキープしたといえる。



元気がなかったチュンチュン・ワジュティ組

米倉が2連覇

▽女子ダブルス1回戦

徳田　米倉　2（15 17／3 14）0　黄善愛　金練子（K）

関谷　根　2（15 15 12／4 5 15）1　東海林　大塚　2（15 15／2 8）0　リードビューター、チャプマン（E）　リダー、ビューセコム（H）

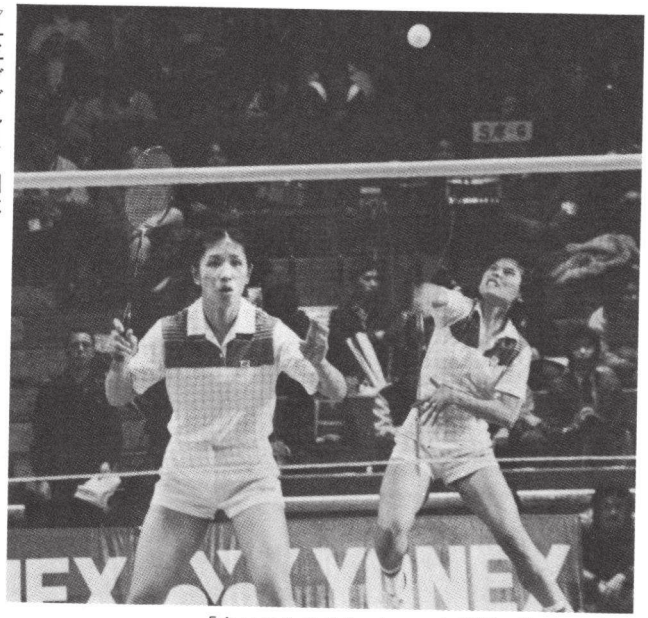
イメルダ、ベラワテ（IN）　2（15 15／0 3）0　劉秀鶯　陳玉珍（CT）

近藤　高田　2（15 15／5 5）0　カートン、ケリー（U）

桝野　月岡　2（15 18／7 14）0　クラーク、サットン（E）

北田　冨田　2（15 10 18／8 15 17）1　テレシヤ、ダマヤンティ（IN）

ペリー、ウェブスター（E）　2（15 15／4 3）0　河平　村



「負けてたまるか」といった表情の徳田・米倉組

▽同2回戦

徳田　米倉　2（15 6 15／7 15 11）1　関谷　根

イメルダ、ベラワテ　2（15 15／11 2）0　東海林　大塚

近藤　高田　2（18 15／14 12）0　桝野　月岡

ペリー、ウェブスター　2（15 15／1 8）0　北田　冨田

▽同準決勝

徳田　米倉　2（15 15／8 6）0　イメルダ、ベラワテ

ペリー、ウェブスター　2（15 10 15／8 15 4）1　近藤　高田

▽同決勝

徳田　米倉　2（15 7 15／8 15 6）1　ペリー、ウェブスター

（徳田・米倉組は2連勝）

〈国名表示〉U＝アメリカ　E＝イギリス　H＝オランダ　IN＝インドネシア　K＝韓国　CT＝台湾　C＝カナダ　D＝デンマーク　S＝スイス



ペリー・ウェブスター組にウェットナールコーチが何かヒソヒソ

●女子ダブルス

切り札、徳田・近藤・高田組も着々と〝実力強化〟

徳田・米倉組が、昨年に続き2連勝に輝き、ユ杯の年、年頭を飾るにふさわしいスタートを切った。

徳田・米倉組は、1回戦から韓国の強豪、黄善愛・金練子組と対戦、思わぬ苦戦を強いられてしまった。

想像以上のパワーを持つ黄組は、1オールから4ポイント連取、5―3から4ポイント、9―5から5ポイントと、一気にゲームポイントを奮い14―5、日本ペアの度肝を抜く速攻を見せた。

しかし、ここから徳田組が身上の粘りを発揮、7―14から連続10ポイントの大逆転に成功してピンチを切り抜けた。

競い合いに意外な弱さを見せる韓国ペアは、第2ゲームもサービスオーバーはするが得点に恵まれず完敗、ダブルスでの韓国旋風はならなかった。

徳田組は、2回戦の谷・関根組とも、第2ゲームを完敗するなど不調な戦いぶりで心配させたが、イメルダ・ベラワティ組にはつけ入る隙を与えず、いよいよエンジン全開。

決勝は、粘りの徳田組に対し切れ味のペリー・ウェブスター組の順当な組合わせとなった。

しかし、徳田組は第2ゲームを気の緩みで落とした他は、危なげない試合運びを見せ、今年も日本のエースになることは必至だが、その期待に見事応えてくれそうな勢いである。

準優勝のペリー組にくい下がったのが近藤・高田組。

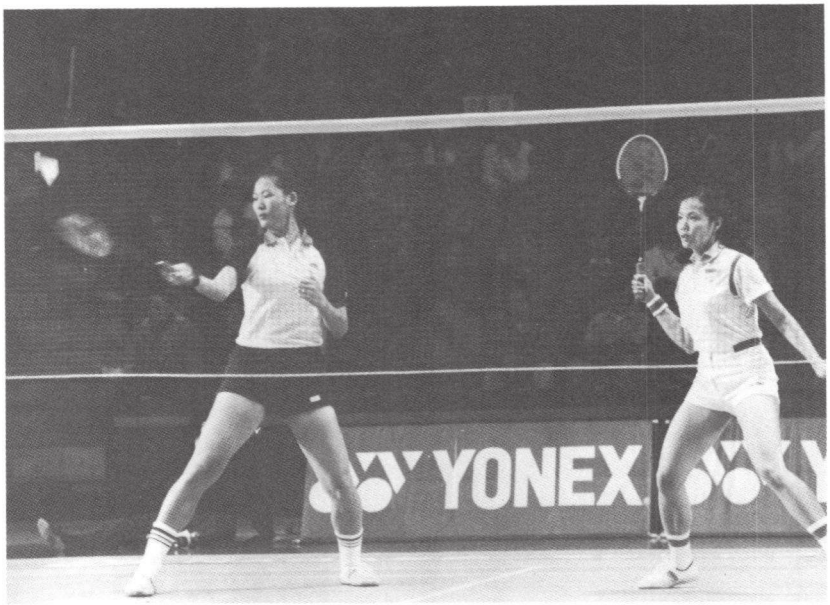
形相を変えて戦う様は、まさに勝負に対する執着心の現れか、コンビネーションぶりも大分よくなって、これも第2のダブルスとしてユ杯の大きな戦力である。

ユ杯最大の強敵、インドネシアのイメルダ・ベラワティは今大会はもたつき気味、イメルダに年齢的な衰えが見え、ベラワティも大きな体をもてあましていた。

しかし、この種目の日本の層の厚さは圧巻。

谷・関根組、東海林・大塚組、栂野尾・月岡組、北田・冨田組もベスト8入りを果たし、それぞれに一段と実力の向上が見られたのは頼もしい限り。

今大会には、アメリカペアの参加もあったし、イギリスの若手もよくがん張ったが、インドネシアには進境がそれほどうかがえず、質量とも日本が他を圧する感があった。



精彩なかったイメルダ・ベラワティ組

チャンピオンをめざせ！



錢谷欽治

イチがバチかはシングルスの敵

前にも書いたように、高校時代の私のプレーはスマッシュ、スマッシュの連続、それこそ打たなければ却って恐怖心に襲われるといったら言い過ぎであろうか、ガムシャラに打つしか能がなかった。

大学生となってからも、1・2年の間はその延長が続いたが、大学ともなるとただ単にスマッシュを打っても決まるものではない。

クリアーやカットで、相手を揺さぶり崩してから打つようになったのである。

ひと口にいってスマッシュとは、決定打となることを願う強打のストロークである。

しかし、現実はそうは巧くいかない。

スピードがあるだけに、反撃もされ易く、打った後の体勢も崩れるので、より危険なストロークともいえるのだ。

今回は、ではそのスマッシュをいかに有効に使うかを書いてみたい。

はじめに、原則としてシングルスの中でのスマッシュに、イチかバチかのスマッシュはないということ。

ダブルスならば、少々体勢が崩れてもパートナーが補ってくれるが、シングルスは一人でオールコートカバーしなければならない。ネット前へ上がったポップフライ以外は、常に次の動作へ移る余裕をのこしておく必要がある。

理想をいえば、百パーセントジャンプできれば、それにこしたことはないのだ。が、一試合を通してジャンプし続けることは容易ではない。

ひと昔前の、中国の侯加昌、湯仙虎などはそれに近い選手だったし、デビュー当時のリム・スイ・キンも凄かった。理想に近いシングルスをしていた。

しかし、一試だけならまだしも、トーナメントでジャンプし続けることは不可能ではないだろうか。

あの、全身バネといったリム・スイ・キンでさえ、最近は緩急を織り混ぜ、オーソドックスなプレーへ変身し、極端なラッシングは見せなくなった。

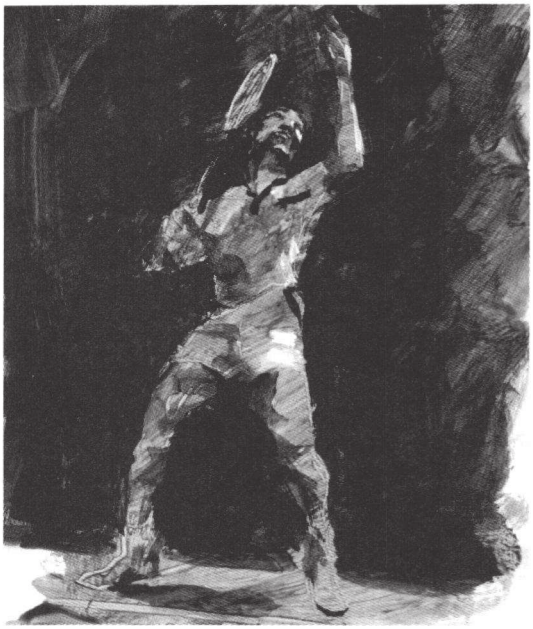
状況に応じ狙う

ここでクイを打っておかねばならないことは、スマッシュを打ち続ける荒々しさは、ある時期必要なことといえるが、終局的には自分の持っている体力をフルに出し切る〝**オールラウンド**〟なバドミントンを目指す以外にないのだ。

とはいうものの矛盾するようだが、若さ溢れるある時期にスマッシュを打ち続けることは、一流選手となるための不可欠の条件であることも事実だ。

スマッシュを打つことによって、パワー、脚力を高めるなど体力養成にもなり、スピード感覚を養うことができる。

また、より速くスマッシュを打とうとする気迫が、バドミントン上達に大きなウェートを占めていると思うからだ。



スマッシュは、ただ単に力いっぱい打てばよいというものではないことは前にも書いた。

では、そのコースというものを初めに考えてみたい。

基本的には、左右のサイドライン際ぎりぎりに、ネットから浮かないよう角度をつけて狙うのが第一。

ボディアタックが第二。

そして、やはりライン際の奥（バックバウンダリーライン）深くが第三。

サイドライン際へ、角度をつけて打つことに関しては、説明を待つまでもないだろうが〝シングルス的〟には狙い方が問題となってくる。

サイドラインぎりぎりを狙えば当然アウトが多くなってくるはず、しかもゲームの終盤になればなるほど、体力的にパワーがなくなってくる上に、ゲーム展開上プレッシャーがかかって肩に力がはいってくる。

狙う場所は同じでも、狙う側の条件は次第に悪くなっていくものなのだ。

これが、シングルスの力量の差というものだ。

初めはオンザラインに決まっていたものが、後半アウトになってしまう。また、初めはラインを割っていたものが、徐々に決まり出すといった光景はよく見られるが、これは偶然でもなんでもない。

試合進行とともに、その日のコンディション、調子を見極めて調整していくのが、シングルスの〝能力〟といえる。

その日、その時によって、ラインの10センチ内側を狙うか、20センチ内側を狙うか、微妙な判断を下していかねばならない。

試合の終盤にさしかかり、緊白したゲーム展開の中で打つスマッシュ、疲労した体力にムチ打って放つスマッシュ、これがその人のシングルスとしての能力を決定づける。

練習時に、このことをよく頭に叩き込んで、あらゆる場合を想定して取り組んでおかなければならない。

特に、バック奥からラウンド・ザ・ヘッドで打つストレートスマッシュは、状況に応じてよく決まったりアウトになったりするから気をつけること。

私は、大学3年頃から小島一平さんのストロークをヒントに、バックサイドから相手のバックへ打つクロススマッシュを武器にしていた。

打点を前方にとることによって、相手にストレートと読ませ、思い切り面を切ってスライス気味に落とすと想像以上の効果があった。

このように、クロススマッシュは決まる確率も高いが、一歩間違えば大きな落とし穴が待っている。

クロススマッシュのリターンは、ほとんどがネット際へストレートで返球されるのだから、ストレートスマッシュを上回る勢いで、ネット方向へダッシュすること。

利き腕を狙い ネットへ走れ

また、クロス、ストレートを使って、シャトルを左右に散らすことも大事だが、ボディアタックすることも、重要な意味を持ってくる。

20パーセントないし30パーセントの割合いでボディを攻めることによって、サイドへの感覚を散漫にさせることができる。

サイドへばかりシャトルを集中させると、相手の目が慣れて選球眼が良くなるばかりか、左右への動きにリズムが出て、少々際どいコースへも手が届くようになってしまう。

そして、ボディへスマッシュしたら〝全力でネットへ走れ〟これが鉄則だ。

狙う場所は、相手の〝利き腕のつけ根〟。

これで、相手のリターンはネット前と断定しても間違いないと言い切れる。

ボディアタックは、サイドアウトになる恐れがなく、リターンエースを見舞われる危険性も少ないので、ここぞという勝負どころでは意外なほど効果を上げることができる。

ぜひ、試してみることだ。

以上、取り留めがなくなってしまったが、スマッシュにはクロスにしろストレートにしろ、〝決めるスマッシュ〟〝くずすスマッシュ〟〝繋ぎのスマッシュ〟があることも銘記しておいて欲しい。

それを練習時において、打ち分ける訓練をし、習慣づけてよりロスの少ない、有効なスマッシュを身につけて欲しい。

〈カットは長谷部憲和さん〉

テクニックを盗め



ダブルス講座　飯野佳孝

サービス

今月号より、銭谷選手の「チャンピオンをめざせ」と平行して、飯野佳孝選手書き下ろしによる「テクニックを盗め」を連載いたします。

「チャンピオンをめざせ」がシングルスに即した技術編であるように、「テクニックを盗め」は、基本ストロークをより高度なダブルスの実戦に置き替えて解説していきます。「チャンピオンをめざせ」ともども従来にはなかったユニークな角度からバドミントンを見つめ直していきます。どうかご期待ください。

ご在知のように飯野佳孝選手は、カミソリスマッシュで知られる現在パリパリのダブルス・チャンピオン。土田証雄選手と組んで、全日本総合優勝5回など、ダブルスのタイトルを総ナメにしている文字通りのトッププレーヤー。

一昨年の全英選手権では、優勝したインドネシアの強豪、チュン・チュン、ワジュディ組にあと一本と迫る大健闘を演じ、3位に入賞、世界一流プレーヤーの仲間入りを果たしました。

飯野佳孝さんは、昭和28年2月27日、新潟県三条市に生まれ、三条商業高、日本大学を卒業、昭和50年にヨネックススポーツ（株）入社、現在に至っています。

身長一七六センチ、体重63キロの細い体には、今後ますます大きな期待がかかることでしょう。

ひとつのサンプルとして…

読者の皆さん、はじめまして飯野佳孝です。

今月号から「テクニックを盗め」を連載いたします。

これは、現在書店に出回っている教科書的、入門書的な指導書に飽き足りない人達のために、という趣向で始めるものです。

ですから、すべてが万人向けというものではありません。

いうなれば、私個人のテクニックの〝披露〟にすぎません。

他人はどうであれ、私はこうやっている、という程度のものです。

この連載が、参考になる人もいれば、参考にならない人もいるはずです。

要するに、タイトル「テクニックを盗め」とあるように、他人のテクニックを如何にして自分のものとして取り入れるかということです。

ストレートにそのまま導入することもあれば、自分なりにアレンジして練り直すものもあるでしょう。

飽くまでもひとつのサンプルです。

しかし、私も自分のテクニックに関しては信念を持っている積りです。

きっと、何らかの形でお役に立つことができるとお約束いたします。

まず今月は、名刺代りとしてサービス編。

ダブルスにおいてサービス、特にショートサービスの重要さは今更いうまでもない。

ショートサービスが生きるか死ぬかで、勝敗の分かれ目になるといっても過言ではない。

では、如何にして浮かないショートサービスを打つか、ということだが、これはラケット面をかぶせるようにすること。

ラケット面を捻ったり、切ったりする人をよく見かけるが、これは良くない。

インパクトからフォロースル

スピン・サービスは、スウィートスポットをはずせ!!

ーにかけて、かぶせるようにすれば浮かない道理だ。

次に狙うコースであるが、基本的には最短距離へのストレートが主体。……Ⓐ

次にクロス。……Ⓑ

そして、案外な効き目を現わすのがコート中央。……Ⓒ

これは、ストレートやクロスは多くの練習をこなしているのに比べ、中央は盲点となって打ち慣れていない場合が多い。

この3つを組み合わせ、前半のうちに相手のリターンの癖を見抜いてしまうことだ。

人間、すべてのコースから素晴らしいプッシュ打つことなど不可能、得意なコース不得意なコースが絶対あるはずだ。

前半のうちに、まんべんなく配球し、その〝癖〟を知っておくと同時に、あらゆるコースにシャトルが飛んでいくことを頭に入れさせ、〝的を絞らせない〟という効果も生むことができる。

ロングサービスは、ドライブ性のものとクリアー性のもののふた通りがあるが、これは状況に応じて使い分け、速い球に強いか弱いか、多く走らせるかなど目的に合わせること。

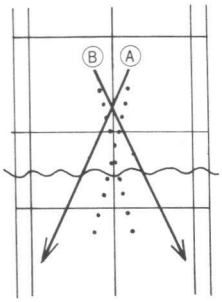
しかし、いずれもトリッキーなロングサービスは避ける方が賢明だ。

ロングサービスは、飽くまでもそれに頼ってポイントするためのものではなく、相手にスマッシュを打たせるためのもの。

相手のスマッシュが弱い場合や、相手のスタミナの消耗を狙って打つものである。

当然、相手にスマッシュを打たれることを想定して打つものだから、スマッシュのコースを予想でき、サーバー自身がレシーブできることが望ましい。

それには、センターライン際のⒶとⒷが最もふさわしいコースだ。



Ⓐに打ってもⒷに打っても、ほとんど矢印の方向へしか返ってこないのが通例。

この読みが当たれば、サーバーが処理することができる。

最後に、現在流行しているスピン（羽根打ち）サービスについて一言。

まず、これはフォールディング、ダブルフォルトとは明らかに違うということ。

厳密にいえば、どのストロークもラケット面に接触する際には、コルクを叩く前に羽根を叩いているのだ。

逆に、コルクを叩いてから羽根を叩いている場合もある。

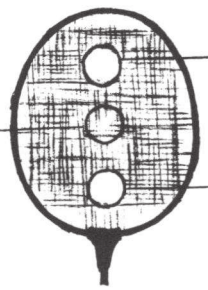
禁止する理由は何処にもないのではないか。

私が初めてこのサービスに出会ったのは、数年前、中国の湯仙虎と対戦したときだ。

余まりの切れの良さに、何度も空振りをさせられ、われわれはこれを〝湯仙虎（タン・シェン・フー）サービス〟と呼んでいた。

これが、今や全世界の話題の的となっているのは周知のとおり。

スピンサービス是か非かは、ひとまず置くとして、技術的に解剖してみると……。



中国ではこれを、ラケット面の根元に近い部分（いちょうの上辺り）で打ち、インドネシアでラケット面の先端で打っている。

これは、どちらもスウィートスポットを外している訳だ。

一番弾きの良いスウィートスポットを外すことによって、シャトルをラケット面に長く保ち、強く回転を与えることができる。

これが〝コツ〟でもある訳だ。

日本でも、このサービスを使い出す選手を数多く見うけるが、その威力はまだ乏しい。

この点を参考にして、改善に改善を重ねより脅威的なスピンサービスをあみ出して欲しい。

われらのクラブ

苦節10年を乗り越えて

越谷バドミントン・クラブ



お化粧を直そうなんて誰です!!

私たちのクラブ「越谷バドミントン・クラブ」ほど、幅広い年齢層の集まるクラブも少ないのではないでしょうか。

上は40歳・50歳代から、下は中学生に至るまで、親子ほどにも歳の離れた人たちが、和気あいあいとプレーする様は何ともほほえましい限りです。

しかし、今日となるまでは山あり谷ありの決して平担な道のりではありませんでした。

昨年、創部10周年を迎え盛大な記念行事を行ないましたが、苦節10年を思うと感慨深いものがありました。

10年前、埼玉国体用に建設された体育館を利用して、社会体育の一環として発足したものの、バドミントンへの認識不足、指導者の不足などからクラブ員が定まらず、いち時はクラブが消滅してしまうのではないかと心配した時期もありました。

県内では、弱いクラブの代名詞のようにいわれるし、随分悔しい思いをしたこともあります。

それも今は昔の物語。

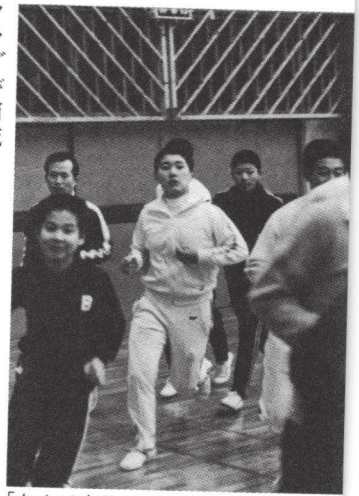
質量とも、つまり強くもあるし、楽しいクラブという意味においても、名実ともに県を代表するクラブに成長しました。

一昨年のインターハイのダブルスで、3位に入賞した峰君も「越谷クラブ」の出身ですし、県内の有力選手の中には〝わがクラブ〟から巣立っていった選手が少なくありません。

「越谷バドミントン・クラブ」で初めてラケットを握り、社会人になってまた戻ってくる。そんなクラブ作りが理想的ではないでしょうか。

ひと昔前、埼玉国体の舞台となったこの市民体育館は、私も岡山代表として出場しただけに、何か目に見えない糸で結ばれているような因果関係を感じ、微力ながら力の及ぶ限り、この「越谷バドミントン・クラブ」のために役立ちたいと思っております。

（池ノ谷一郎）



「なんで今日はこんなことするの？」

⊙保存版★第2回日本リーグ記録★





〈男子〉

●東京大会（11月30日）

カワサキ2―1電電北海道

銭谷 2 15 15 9 0 木村
角田 2 15 12 9 0 遠藤
根岸 2 9 13 5 15 15 5 1 佐藤

（佐藤アキレス腱切断のため棄権、よって根岸の勝ち）

今井 0 12 15 3 15 2 高木
斉藤 0 15 15 11 2 米山

電電東京2―1高岡市役所

池田 2 15 9 15 2 米沢
尾崎 2 15 4 15 8 15 12 15 1 土田

●長岡大会（11月30日）

ヨネックス3―0全日本学生

関村 1 15 15 9 15 2 田所
牧野 1 8 15 15 12 15 4 宮森

今泉 0 15 15 11 0 尾崎 2
米沢 2 15 9 15 4 1 池田

●徳山大会（12月7日）

ヨネックス3―0カワサキ

梅野尾 2 15 15 8 0 宮本
飯野 2 15 9 15 0 久郷

長谷川 2 15 15 12 0 西山
林田 2 5 15 15 11 15 1 上原
辻 2 2 11 15 1 権藤

（権藤右ヒジ打撲のため棄権）

●高岡大会（12月14日）

高岡市役所2―1カワサキ

梅野尾 2 15 15 13 15 1 銭谷
飯野 2 15 8 15 3 15 1 中井

林田 2 15 15 6 7 0 西川
辻 2 15 15 5 5 0 斉藤
長谷川 2 15 15 5 5 0 角田

今泉 2 15 15 5 3 0 中井
米沢 2 15 5 3 0 西川

米 0 9 15 4 15 2 銭谷
関村 2 15 15 12 11 0 今井
牧野 2 15 12 11 0 斉藤

●上尾大会（12月14日）

電電東京3―0全日本学生

池田 2 15 15 8 15 10 15 1 上原
尾崎 2 15 7 10 0 西山

土田 2 15 15 8 11 0 坂井
田所 2 15 15 7 5 0 宮本
宮森 2 15 5 0 久郷

●倉敷大会（12月21日）

電電東京2―1カワサキ

池田 2 15 15 3 2 斉藤
尾崎 2 15 10 3 0 中井

宮森 0 6 13 18 2 銭谷
田所 2 15 15 4 4 0 角田
土田 2 15 4 0 根岸

●刈谷大会（12月21日）

全日本学生2―1電電北海道



●前橋大会（1月11日）
高岡市役所3－0電電北海道
上原 西山 2 (15-13 15-3) 0 木村 遠藤
坂井 2 (15-11 15-5) 0 平沢
宮本 久郷 0 (11-15 8-15) 2 高木 米山

●京都大会（12月21日）
ヨネックス3－0高岡市役所
梅野尾 飯野 2 (15-10 15-13) 0 今泉 米沢
辻 林田 2 (18-13 15-11 9-15) 1 関村 牧野
長谷川 2 (18-15 9-15 15-11) 1 米

●札幌大会（12月28日）
ヨネックス2－1電電北海道
梅野尾 飯野 2 (15-9 15-8) 0 木村 遠藤
長谷川 2 (15-2 15-3) 0 平沢
辻 林田 1 (7-15 15-10 6-15) 2 高木 米山

●大津大会（1月11日）
全日本学生2－1カワサキ
宮本 久郷 2 (15-13 15-10) 0 今井 中井
西山 0 (1-15 11-15) 2 銭谷
上原 権藤 2 (15-5 15-9) 0 根岸 角田

●東京大会（1月15日）
高岡市役所3－0全日本学生
今泉 米沢 2 (15-7 15-1) 0 宮本 久郷
米 2 (15-4 11-15) 0 西山
関村 牧野 2 (18-17 15-3) 0 上原 権藤

電電東京3－0電電北海道
池田 尾崎 2 (15-11 15-7) 0 木村 遠藤
土田 2 (15-10 15-6) 0 平沢
田所 宮森 2 (15-7 15-12) 0 高木 米山

電電東京2－1ヨネックス
池田 尾崎 1 (10-15 10-15 15-12) 2 梅野尾 飯野
関村 牧野 2 (15-12 15-3) 0 高木 米山
米 2 (15-5 15-1) 0 平沢

高岡市役所3－0電電北海道
今泉 米沢 2 (18-13 15-0) 0 木村 遠藤
土田 2 (15-2 15-12) 0 辻
田所 宮森 2 (15-1 15-3) 0 後藤 林田

勝利へひた走る鮮烈のプロショップ

ラケットショップ元町®

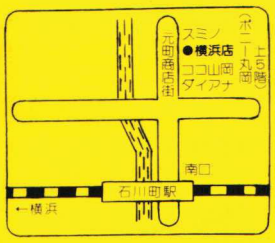
ご要望があればどこへでも、
最高のスタッフが……!!

とんで! まわって! コーチして!!

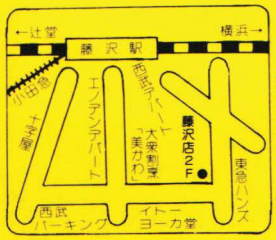
無料巡回コーチング・サービス



®



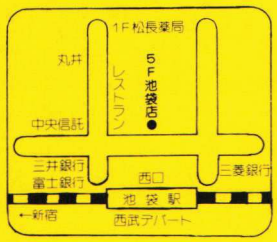
●横浜店
5Fテニスフロア
☎045-651-2020
4Fバドミントン
☎045-662-7138



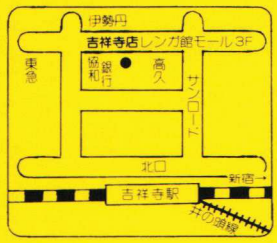
●藤沢店
テニス・バドミントン
☎0466-26-2552



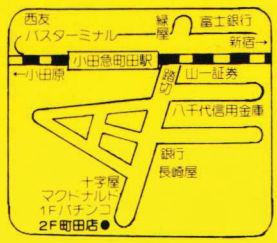
●渋谷店
バドミントンプロショップ
☎03-4007-7390



●池袋店
バドミントンプロショップ
☎03-3986-0215



●吉祥寺店
バドミントンプロショップ
☎0422-21-7890



●町田店
バドミントンプロショップ
☎0427-28-0950

30 YEARS
ラケットスポーツとともに30年

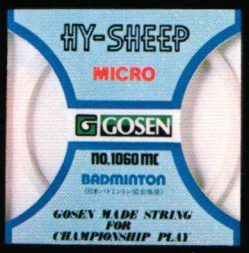
ガット新世紀。

ブレンドタイプ&ミクロタイプ誕生。
新しい2つのゴーセン。

常に、時代をひらく個性鮮やかなガットを創りつづけてきたゴーセン。その円熟の技術が、またひとつの新しい時代をひらこうとしています。画期的な複数ブレンド素材をベースに今、2種類のニュータイプガット誕生。多種の高性能繊維高分子ブレンド中空糸に特殊油を注入。反発力と全天候性を一段と高めたブレンドタイプ(特許出願中)。そして、常識をこえた超超極細ゲージを採用。シャープな球ばなれとシュアな打球感を実現したミクロタイプ(特許出願中)。新しい2つのゴーセンの誕生。いま確かな手応えで、ガットの新時代が始まろうとしています。

¥1,000
ウインテックス・ブレンド





ハイ・シープ・ミクロ
¥600



ラケットスポーツで世界をむすぶ
GOSEN

本社●540-大阪市東区農徳町4☎(06)942-5816代　東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2☎(03)862-6576代　福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8☎(092)712-5247代　北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22☎(0762)47-0200代

ずらり、4店勢揃い。

渋谷店

230坪 760㎡の広々とした店内でゆったりショッピング。

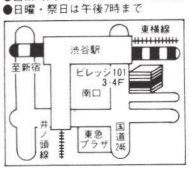


バドミントンコーナー



毎月曜日定休

東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3・4階） TEL03-464-9251〜2〒150
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

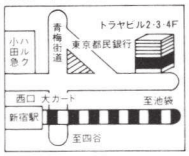


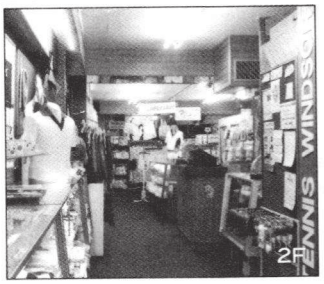
新宿店

落ち着いた雰囲気でお買いもの。各階それぞれの楽しさがいっぱい。

毎月曜日定休

東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2・3・4階） TEL03-363-6848〒160
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで







バドミントン・フロア

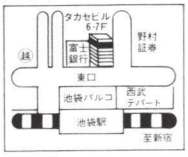


池袋店

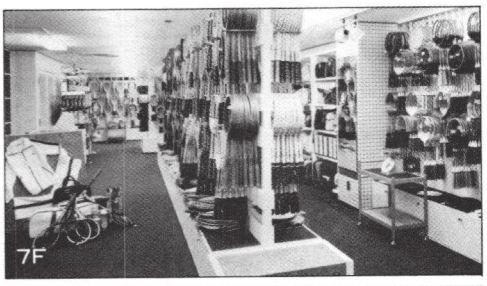
つぶ揃いのテニス、バドミントン用品が店内にあふれんばかり。

毎月曜日定休

東京都豊島区東池袋1-1-4（タカセビル6・7階） TEL03-989-0401〒170
●営業時間/午前10時〜午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで

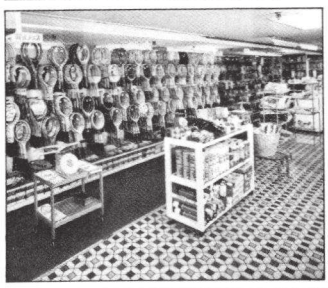






横浜店

ラケット、ウェア、シューズ……すべてに豊富な品揃え。選びやすい各コーナー。



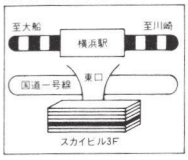


男性ウェア・コーナー



年中無休

横浜市西区高島町2-1 横浜駅東口（スカイビル3階）TEL045-453-1785〒220
●営業時間/午前10時〜午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで



日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

ウインザー ラケット ショップ。



カワサキラケット株式会社

勝利の喜びがあるから、私はこのラケットを握る。

グラファイトのカラー化を実現したエイトファイブ。
軽さが復元力が一瞬の動きに応える。

独特のグラファイトシャフトは、復元力を限りなく高め、スピードの限界に挑むプレーに的確に応えます。シャフトが強化されてしかも軽さを徹底的に追求。カラーも鮮やかなRed、Green、Yellowの3色。個性的なプレーに美しさを添えるバリエーションです。エイトファイブはグラファイトラケットをいっそう身近かにしました。

B-85
エイトファイブ

新製品

- 素　材：グラファイトシャフト/高力アルミ合金フレーム
- カラー：レッド・グリーン・イエロー（ケース付）
- フレーム価格：9,500円



Nice Day with Racket
kawasaki


VERAWATI WIHARYO
ベラワティ・ウィハルジョ
1979年全英選手権女子ダブルス優勝
1980年第2回世界選手権女子シングルス優勝



▲ハルトノを囲んで楽しそうなひと時

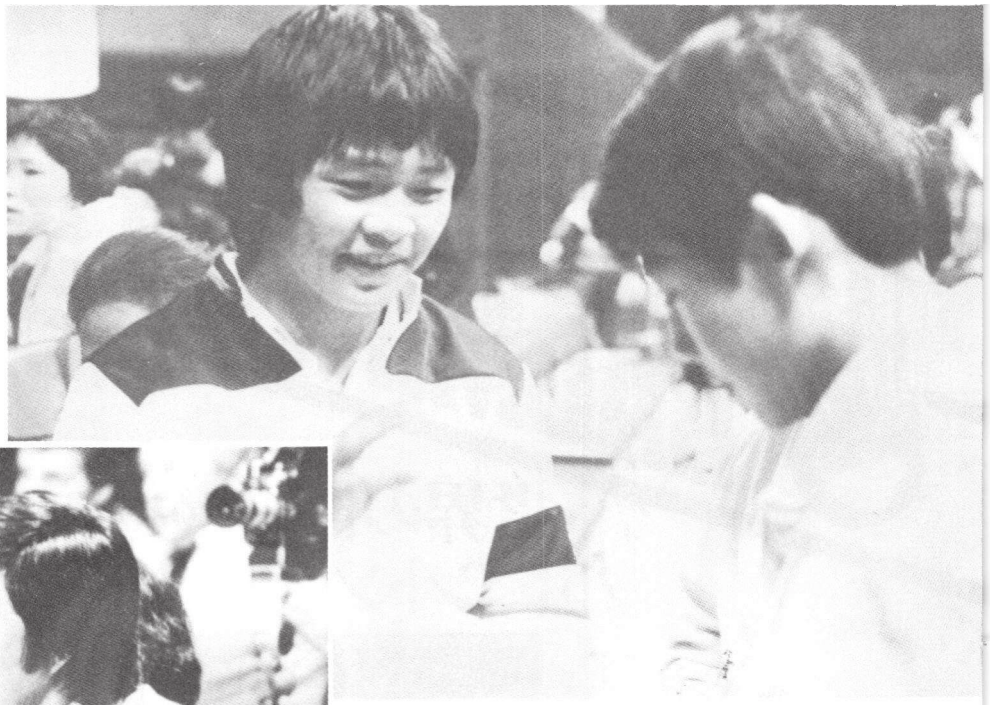
▼北田は相変らずの食欲



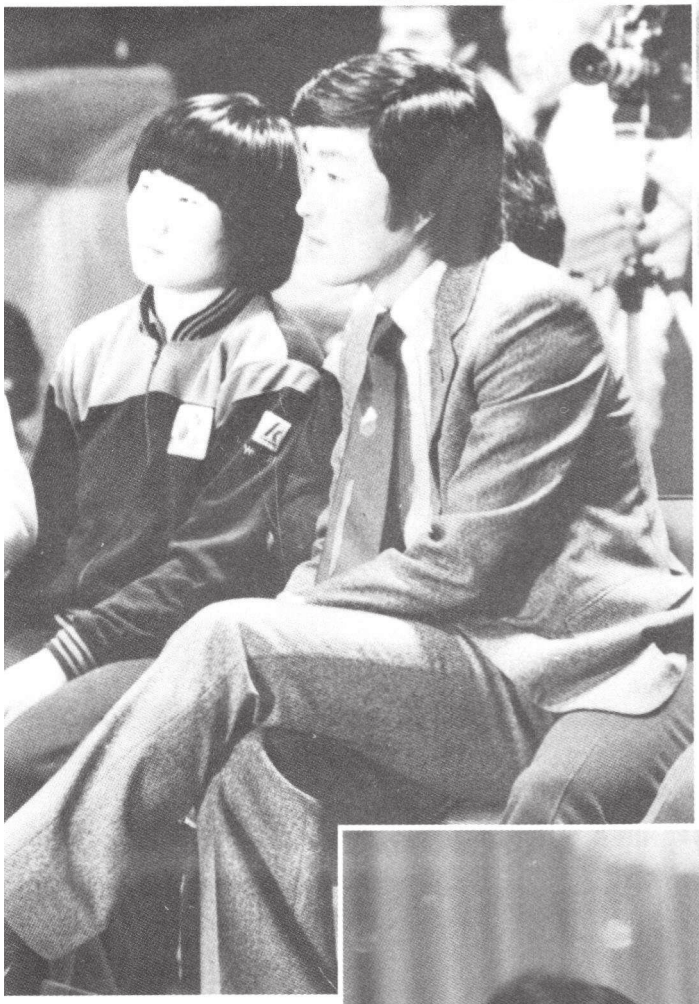
の人たち



◀お忙が氏、モリーン会長夫妻



▼金コーチに秘策を受ける黄



▲「まあ、そんなにあわてないで」といったかどうか
モテモテのポンゴ

今、注目

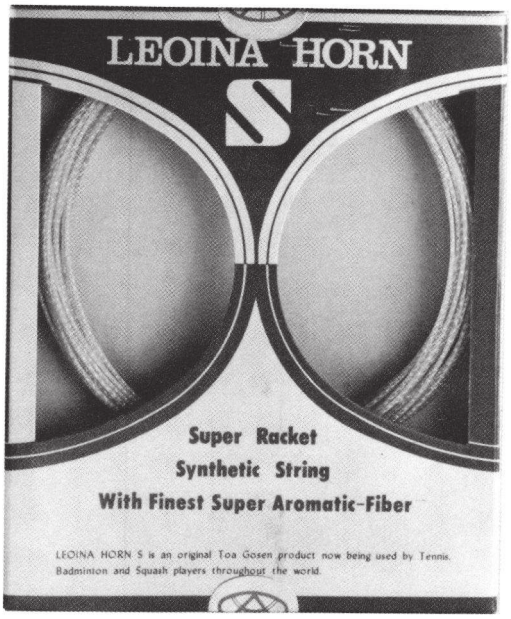


▶ちょっぴりはにかむ高峰と陣内(右)

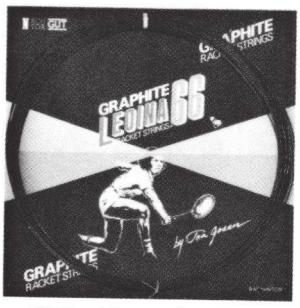


RACKET BADMINTON STRINGS

世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒651　神戸市中央区八雲通３－１－24

☎078(232)1991(代)

⊙保存版★第2回日本リーグ記録★





〈女子〉

●東京大会（11月30日）

カワサキ3－0日本電装

横山						土田
西村	2	18 15 10			1	関根
		16 11 15				
端						小松
渡辺	2	18 18 11			1	皆川
		13 13 15				
近藤	2	11 11			0	片山
		0 6				
湯木						加塩
高岸	2	15 15			0	畑原
		2 5				
関根						河村
大塚	2	15 15 10			0	平
		11 10				
石田	2	11 11			0	植田
		3 4				
栂野尾						川崎
飯野	2	15 15			0	沼田
		3 4				
河村						皆川
平	2	15 15 2			0	片山
		3 2				
植田	2	11 5 11 7			1	小松
		2 11 7				
川崎						水谷
沼田	0	4 2 15			2	加塩
		15 15				
徳田						栂野尾
谷	2	15 15			0	飯野
		4 5				
東海林						水谷
	2	11 11 3			1	大塚
		3 9 11				

●長岡大会（11月30日）

ヨネックス3－0三洋電機

●大阪大会（12月7日）

三洋電機2－1日本電装

●徳山大会（12月7日）

カワサキ3－0全日本学生

●高岡大会（12月14日）

ヨネックス3－1全日本学生

●上尾大会（12月14日）

カワサキ3－0三洋電機

●倉敷大会（12月21日）

カワサキ2－1ヨネックス



近藤 2 — 11 5 11 — 6 11 1 — 1 石田

渡辺 高岸 1 — 11 7 17 — 15 15 16 — 2 梅野尾 土田

●刈谷大会（12月21日）

サントリー3－0日本電装

徳田 高田 2 — 15 15 — 0 小松 皆川

東海林 2 — 11 11 — 4 3 — 0 畑原

横山 西村 2 — 18 15 — 3 11 — 0 加塩 水谷

●京都大会（12月21日）

三洋電機2－1全日本学生

河村 平 2 — 15 15 — 11 1 — 0 高峯 小野

植田 2 — 12 7 11 — 10 11 5 — 1 田村

川崎 沼田 0 — 0 3 15 — 15 2 月岡 高鴨

●札幌大会（12月28日）

サントリー3－0全日本学生

徳田 高田 2 — 15 15 — 4 0 — 0 田村 月岡

東海林 2 — 11 11 — 0 2 — 0 彼島

横山 西村 2 — 15 15 — 3 0 — 0 高峯 小野

●大津大会（1月11日）

サントリー3－0三洋電機

徳田 高田 2 — 15 15 — 8 7 — 0 平 河村

東海林 2 — 11 11 — 2 1 — 0 植田

葛谷 西 2 — 15 15 — 2 3 — 0 沼田 川崎

●前橋大会（1月11日）

全日本学生3－0日本電装

月岡 田村 2 — 15 15 — 12 7 — 0 小松 皆川

小野 2 — 11 9 11 — 7 12 7 — 1 畑原

彼島 野口 2 — 15 15 — 8 9 — 0 加塩 水谷

●東京大会（1月15日）

ヨネックス3－0日本電装

関根 大塚 2 — 15 15 — 7 1 — 0 小松 皆川

石田 2 — 11 11 — 4 4 — 0 片山

中田 高野 2 — 15 15 7 — 12 9 15 — 1 加塩 水谷

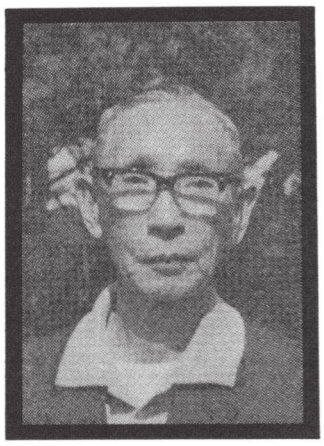
カワサキ2－1サントリー

端 高岸 0 — 9 12 — 15 2 高田 徳田

近藤 2 — 11 11 — 5 7 — 0 原口

湯木 渡辺 2 — 17 11 15 — 16 15 9 — 1 東海林 谷

バドミントン育ての親
広田兼敏氏逝く



日本バドミントンの育ての親である広田兼敏氏が、1月14日午後4時、横浜の自宅で81歳の長寿をまっとうされ、静かに息をひきとられた。

広田氏は、長年にわたり日本バドミントン協会副会長の要職を務められたほか、その功績は各種の受賞を見ても判るように偉大なものがあった。

葬儀は、1月17日、日本基督教会横浜海岸教会でしめやかにとり行なわれた。

〔故広田兼敏氏の略歴〕

一八九九年、1月21日、父兼治氏、母はるさんの次男として札幌に生まる。

一九一八年3月、京都工業学校を卒業。

一九一九年6月、横浜YMCA体育事業部に奉職。ライアン氏、ブラウン氏の指導の下に体育主事補、やがて同主事としてバドミントン、バスケット、バレーボール、機械体操、スキー、フェンシング、ホッケー、フォークダンス、デンマーク体操、社交ダンス、ハイキング、水泳、キャンプ、等を指導。

一九二〇年、4月4日、横浜海岸教会において笹倉牧師より受洗。

一九二九年、3月5日、同教会において笹倉康枝さんと結婚。

一九三六年、ベルリンオリンピックに渡欧。各国スポーツ事情を視察、研さん。スキー、バドミントン（はじめて日本に紹介）等を全国的に指導し、東京オリンピックでは、天皇陛下にご説明。バドミントン協会（全国・県・市）、バレーボール協会（全国・県）等の役員、指導者となり、各種の表彰、賞を受ける。主な受賞は次の通り。

一九六九年　横浜文化賞
一九七〇年　神奈川県知事賞
一九七一年　文部大臣賞
一九七二年　勲四等瑞宝賞

全英オープンバドミントン選手権観戦 募集
ヨーロッパツアー（13日間）398,000円

★主な旅行日程

3月22日　東京・成田発（11時15分）コペンハーゲン着（17時05分）
23日　バドミントンクラブ訪問
24日　大学訪問　自由行動　コペンハーゲン発（16時25分）ロンドン着（17時15分）
25日～29日　全英オープン観戦
30日　ロンドン発（10時30分）パリ着（12時30分）市内観光
31日～4月1日　終日自由行動
2日　パリ発（12時30分）コペン経由
3日　東京・成田着（16時30分）解散

★お問い合わせは…お申し込みは……

運輸大臣登録旅行代理店業第2652号
ジャパンスカイワールド株式会社
東京都港区新橋2丁目12番17号竹本ビル405号
TEL（03）502―2546

主催：（株）藤田トラベル・サービス
（運輸大臣登録一般第23号）
東京都中央区銀座6―2―10　〒104
取扱主任者：竹嶋寛
後援：日本バドミントン協会
協賛：ヨネックススポーツ（株）
スカンジナビア航空

■第2回　バドミントン・日本リーグ　男子勝敗表■

男子	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	学生	河崎	北海道電電	勝点	取得点 A	喪失点 B	取得ゲーム率 A/A+B	順位
電電東京		○ 2：1	○ 2：1	○ 3：0	○ 2：1	○ 3：0	5	12	3	.800	1
ヨネックススポーツ	● 1：2		○ 3：0	○ 3：0	○ 3：0	○ 2：1	4	12	3	.800	2
高岡市役所	● 1：2	● 0：3		○ 3：0	○ 2：1	○ 3：0	3	9	6	.600	3
全日本学生	● 0：3	● 0：3	● 0：3		○ 2：1	○ 2：1	2	4	11	.266	4
河崎ラケット	● 1：2	● 0：3	● 1：2	● 1：2		○ 2：1	1	5	10	.333	5
電電北海道	● 0：3	● 1：2	● 0：3	● 1：2	● 1：2		0	3	12	.200	6

電電東京、執念の初優勝!!

事実上の決勝と思われ、その通り全勝同士（ヨネックス4勝電電東京3勝）で迎えたヨネックス対電電東京の前橋大会は、ヨネックスの若きエース・長谷川が腰痛のため欠場という当日の発表で、いまひとつ盛り上がりを欠くこととなった。

それでも、電電東京は勝負が決まるまで気を緩めることなく、第1ダブルスを落としはしたが土田が辻に貫禄勝ちしてタイとし、田所・宮森組が実に力強いストロークで後藤・林田組に完勝して初優勝を不動のものとした。

池田監督は「今日が天王山だと思うと、昨夜は興奮してなかなか眠れなかった。こんなことは学生時代以来だ。」というように、優勝へ対する意気込みは並並ならぬものがあった。

監督の意思が通じたのか、不調の土田も気力でがん張り、田所・宮森組も相手に立ち直りのきっかけさえつかませない素晴らしい迫力があった。

電電東京は、初戦の高岡市役所戦でシングルスの土田に土がつき苦しいスタートを切った。

しかし、ダブルスの池田・尾崎組、田所・宮森組が安定したプレーで、苦しいながらも最大のヤマ場、対ヨネックス戦までしのいだことが好結果に結びついた。

まさに、団結の勝利ということがいえよう。

それに比べてヨネックスは、質量ともに前回優勝の名に恥じない試合ぶりだったが、長谷川の欠場がいかにもアンラッキー。不運としかいいようのないアクシデントだった。

全勝ダブルスの栂野尾・飯野組と、新チャンピオン・長谷川、そして辻の陣容で、2連覇へ向けて一直線だったが、肝心なところで勝利の女神に見放されてしまった。

オールジャパン、日本リーグ、ジャパンオープンとぎっしり詰まったスケジュール、しかも冬場、持病とはいえアキレス腱を切断した電電北海道の佐藤に次ぐ不幸といえよう。

高岡市役所 価値ある3位

今大会、台風の目となって旋風を巻き起こしたのが高岡市役所。

米が加わって、頼れるシングルスができたことが第一。

そしてそのことによって、第

1ダブルスの今泉・米沢組、第2ダブルスの関村・牧野組が持ち味を発揮できる状態になったこと。

対電電東京戦では、米が粘りに粘って土田を倒し、関村・牧野組もファイナルゲームに持ち込んで優勝チームを大いに慌てさせた。

対ヨネックス戦でも、同じくシングルスと第2ダブルスでファイナルゲームを演じるなど、常に観衆を引きつける接戦を繰り広げるなど、立派に優勝戦線に加われる実力を身につけてきた。

学生選抜は、健闘して4位にくい込んだが、現時点ではよくやったといえよう。

なんといっても、チームのバランス、若さという点では魅力あるが、エースの西山が病後だっただけに、今ひとつ迫力に欠けたのは残念だった。

学生らしいキビキビしたプレーを見せた坂井、久郷、宮本、権藤・須貝が一年間腕を磨き、西山が復調すれば、来季は楽しみなチームである。

たった一人の4年生として出場した上原は、大事な試合で勝ち星を挙げ、チームを勝利に結びつける貴重な役割り、キャプテンとしての重責を果たした。

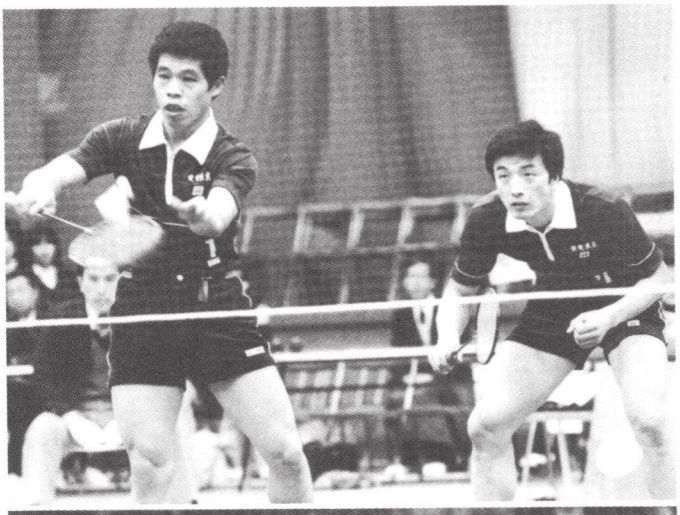
カワサキは、かろうじて最下位は免れたものの、エース銭谷を擁しているのだから、もう少しなんとかならなかったか不思議でならない。

高岡市役所戦では、今井・斉藤組が、全日本学生戦では、今井・中井組が、それぞれ惜しい星を落とし、練習量の不足が目立っていた。

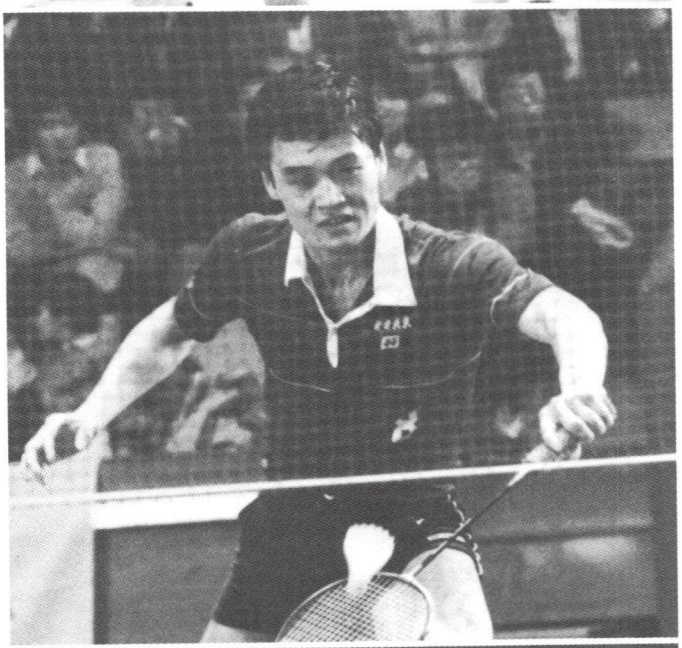
初出場の電電北海道は、いかにも初戦のカワサキ戦での佐藤のアキレス腱切断が痛く、勝ち星を挙げることができなかった。

しかし、地元札幌では全選手がフルに力を発揮、高木・米山組が辻・林田組を降して観衆のやんやの喝采を浴びたのが印象的だった。

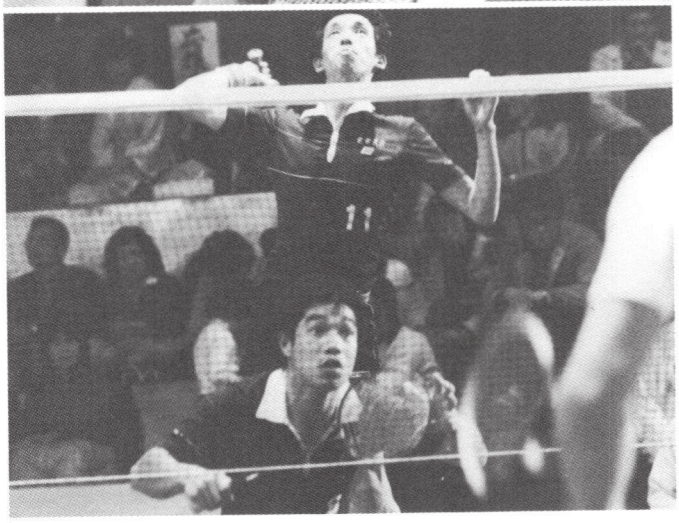
（記録は19・20・29・30ページ）



気迫を伝えた池田・尾崎組



不調を気力でカバーした土田



要所要所を締めた田所・宮森組

バドミントン日本リーグ

カワサキ〝世紀〟の大逆転

■第2回　バドミントン・日本リーグ 女子勝敗表■

女子	河崎	サントリー	ヨネックス	三洋電機	学生	日本電装	勝点	取得点 A	喪失点 B	取得ゲーム率 A/A+B	順位
河崎ラケット		○ 2：1	○ 2：1	○ 3：0	○ 3：0	○ 3：0	5	13	2	.867	1
サントリー	● 1：2		○ 3：0	○ 3：0	○ 3：0	○ 3：0	4	13	2	.867	2
ヨネックススポーツ	● 1：2	● 0：3		○ 3：0	○ 3：0	○ 3：0	3	10	5	.666	3
三洋電機	● 0：3	● 0：3	● 0：3		○ 2：1	○ 2：1	2	4	11	.266	4
全日本学生	● 0：3	● 0：3	● 0：3	● 1：2		○ 3：0	1	4	11	.266	5
日本電装	● 0：3	● 0：3	● 0：3	● 1：2	● 0：3		0	1	14	.066	6

とにかく、4戦全勝同士で迎えた最終日、カワサキ対サントリーの一戦は、最後の最後まで観衆を熱狂させる大一番となった。

過去の実績から、やや劣勢と予想されたカワサキは、第1ダブルスの端・高岸組が大健闘、徳田・高田組に対し第1ゲーム12オールまでくい下がるなど、元気いっぱいのスタートを切った。

これを受けた近藤が、原口に貫禄勝ちしてタイにこぎつけ、いよいよ雌雄を決する一戦となった。

湯木・渡辺組は、湯木の巧みな配球とドロップショットで第1ゲームを先取すると、谷・東海林組も第2ゲーム、これを拾い出して逆襲、ファイナルゲームにもつれ込む大乱戦となった。

この辺り、大応援団を繰り出したカワサキとサントリーの応援合戦はすさまじく、太鼓とシンバルの音で代々木第2体育館は、耳をつんざくような騒ぎとなった。

第3ゲーム、谷・東海林組が8—0とあっけなくリード、勝負あったかに見えた。

しかし、ここから湯木の執念ともいえる猛反撃が始まった。6—8、7—10、そして9—11と差を縮めると、谷・東海林にプレッシャーがかかってサービスミスなど凡ミスを続発、ついに11オール。

12オールから、谷・東海林が14—12とマッチポイントを握ると、湯木組がまた同点に追いつき、ついにセッディングにもつれ込んだ。

カワサキの湯木は、久しぶりに勝利への執念を燃やして、終盤は独壇場の感。打って打って打ちまくり、その懸命のプレーに観衆からもため息。

湯木の願いが天に通じたのか、またもや1—2とマッチポイントを握られてから追いつき、とうとう逆転、会場の興奮は頂点に達した。

悲願の優勝旗を手にした湯木の目に、キラリと光るものが余りに印象的だった。

両チームとも、それまで4勝は完璧に近い内容、サントリーにしてみれば泣くに泣けない最後の高価な1ポイントだった。

優勝戦線に、あと一歩だったのがヨネックス。

対カワサキ戦では、全試合フアイナルに持ち込むなど健闘したが、僅かに決め手に欠けて及ばなかった。

そして、サントリー戦でも、

東海林と毎度ファイナルを演じる大塚が、またしてもファイナルで敗れ万事休す。

しかし、上位2チームに対し互角に戦かったことは、来季に望みを繋ぐものとして期待したい。

初出場の三洋電機は、昨年のインカレ・チャンピオン河村・平組を前面に押し立てて玉砕戦法。

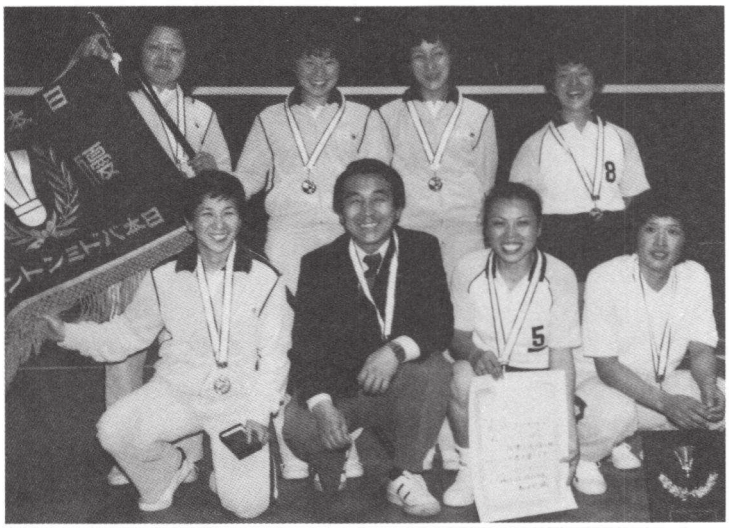
対学生選抜の田村、対日本電装の小松を、いずれもファイナルで植田が降しシングルスで勝利を確定して2勝を挙げた。

三つ巴の4位争いだったが、確実に学生選抜、日本電装から勝ったあたり、初出場ながらなかなかの試合巧者だった。

河村、平、植田は、小柄でしかも非力な面をカバーして、よく走りよく拾いまくった。

学生選抜と日本電装は、中心になる選手、特にシングルスを担当できる選手が欲しいところ。

学生は、これを機に大いにレベルアップを図ってもらいたいし、デンソーは調子のムラを矯正してゆけばまだまだやれるのではないだろうか。



全員「ヤッター」という顔のカワサキチーム



さながら応援団長の近藤



思わず抱き合う湯木と渡辺

バドミントンを楽しく

メディカルアドバイス

四谷健二郎

深呼吸する

人間の体を構成する元素は二四あるが、このうち最も多い元素は、水素の六三%、ついで酸素の二五・五%です。

一九七二年になると、さらにくわしく研究されて、フッ素・ケイ素・スズ・バナジウムの四つの微量元素がこれに加わる。

⊙人は生きている

たしかな記録によれば、現時点でいちばん背の高い人は、一九一八年二月二三日午前六時半にアメリカ、イリノイ州オールトンで生まれたロバート・バーミング・ワドローさんであるという。

生まれたときの体重は、三・八五キロでしたが、異常な発育がたちまちはじまり、ミズーリ州セントルイスにあるワシントン大学医学部の解剖学のC・Mチャールズ先生が、一九四〇年六月二七日にセントルイスで計ったところワドローさんの身長は二・七二mになっていた。

一方、成人男子で最も背の低い人として記録（いずれもギネスブックによる）されているのが、一七九一年一月一四日、アメリカ、マサチューセッツ州プリッジウォーターで生まれたカルビン・フィリップさんです。

生まれたときの体重は九〇七グラムで、五歳のときに成長がとまってしまった。一九歳のときの身長は六七センチで、衣服をまとって測った体重は、五・四キロでした。

このように記録的に大きな人も小さな人もいずれも呼吸している、つまり酸素を必要としているわけです。

一般に筋肉の収縮は当然のことエネルギーを消費する。このエネルギー源は、細胞内でおこなわれる化学反応によって得られるが、中でも大切なのは酸素に関する化学反応です。

地球がどのようにして誕生したか、大気はどのようにして生まれたかの学説はかず多くあるが、ともかく地球ができたてのホヤホヤの頃は地球上には生物が利用できる酸素は、ごく少ないか、全くなかったことはまちがいない。

しかし、神の恵みによるのか、地上に緑の植物がふえるにつれて、太陽光線のエネルギーを利用して水を水素と酸素に分解することが行なわれだした。そして炭酸ガスをでんぷん質に変えるために水素がつかわれ、ひいては生体組織のすべてが有機成分に変えられていく。

酸素が大気中に放出され、緑の植物が繁殖し、数もふえて地上がゆたかになると、大気はしだいにきれいな酸素でみたされる。こうして一〇億年あるいはそれ以上の年月を通して地球上の酸素は二一%までの量になったのです。

ヒトを含めて動物の細胞は、この酸素を利用して生活し、これと食物とを化合させてエネルギーを生産する。

一方、緑の植物は太陽のエネルギーを利用して絶えまなく酸素を空気中に放出している。こうして、いまのところ地球上は動物と植物とが調和して平衡関係がたもたれている。

さて、われわれ人間は、このようにして地上にすんでいるが、それは空気中の酸素にたよりきっていることにほかならない。ところが不思議に思えるほどに、地上にすんで空気中の酸素にた

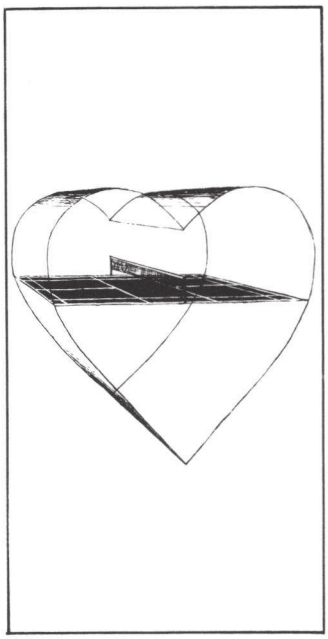
よって生きる動物の集団は、たったの一五%にすぎないのです。

酸素は水にとける。純粋な水一リットルにはほぼ五ミリリットルの酸素が含まれる。ところで海水は、塩からい。つまり海水には塩分が三・五%含まれる。すると一リットルあたり九ミリリットルの酸素がとけることになる。これを広々とした海洋に換算すると、一〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇リットルの酸素があることになる。そして事実、この酸素を海洋生物が利用しているのです。海の方が生物の種類が多いのも当然でしょう。

⊙人間の呼吸数

トノサマガエルをみてみよう。カエルは口の底（下の方）をポンプのように、ふいごのように使っている。その部分は下方にふくれ出していて、空気を鼻孔から肺へ吸いこみ、またふたたび逆の方向にふき出す役をする。

ホ乳類になると肋骨があるので、この空気を出し入れするポンプ作用は、カエルより更に能率がよくなる。肋間筋の一部が肋骨を上に動かして、胸部をひろげると胸腔に陰圧が生じて空気が吸いこまれる。これが吸気です。



物がもえるときには酸素が必要だが、この酸素は炭水化物（糖質）、脂肪、たん白質などと結びついてエネルギーとなるが、呼吸はこの化学反応に必要な酸素を空気中から、からだの中に取り入れ酸化によってできた炭酸ガスを体の外に排出する。

呼吸の回数は、からだが要求する酸素によってきまるといえる。人間は、しずかに横になっていても自分のからだを維持するために、最低限のエネルギーが必要です。

その量は、一時間で約六〇カロリーです。そのためには一時間に一〇リットルの酸素が必要です。

人間は、安静のときで一分間に十二、三回の呼吸をする。少ない人で八回、多い人になると二〇回、また仕事などで動きまわっているときには一分間に二四回もする。

この呼吸、意志とは別に体が酸素を必要とすれば回数が多くなることは理解できたが、血液中の酸素が不足したり、炭酸ガスが多くなったりしたとき、そして日頃経験するように、運動で筋肉が動き出すと、その刺激で呼吸数がふえる。

例えば、炭酸ガスが四%ふえると呼吸は倍になる。

呼吸数は、からだの大きさによってもちがいがでてくる。一般には小さい人の方が呼吸数は多い。事実子供は多い。また動物ではどうか。

ネズミ　六〇回
カナリア　一〇八回
馬　一二回

⊙つとめて深呼吸を

吸気と呼気の間では空気の組成は変化する。

吸気中の空気には、二一%の酸素と〇・〇三%の炭酸ガスが含まれているが、呼気には一四%の酸素と五・六%の炭酸ガスにかわる。

一回の呼吸で肺の中の空気が全部入れかわって新しくなるのかどうか。平静時でしらべておこう。

一回の吸気で五〇〇CCの空気が入り、一回の呼気で五〇〇CCがでるにすぎない。そのうえ実際に吸気のとき肺に入る空気は、気管支、気管、喉頭、鼻腔にいままであった空気で、それはすぐ前の回の呼気で完全に外に出なかった空気が含まれている。また吸気のとき鼻まで入った空気は、使われることなしに次の呼気のとき外におし出されてしまう。

鼻腔から肺にいたる道すじというなれば、ムダと考えてもよい空間は、一五〇CCになるので一回の吸気では実際に肺に入るのは三五〇CCというわけだ。

これを自然呼吸気とよぶ。三五〇CCというのは肺の容量の一人分の一でしかない。

七人は普通、このように浅い呼吸をしているのだから、つとめて意識して深呼吸する必要がここにあるのです。

私たちが深呼吸すると二五〇CCの空気を吸入できる。それはかりか、努力して肺の中の空気を最大限に追い出し、ついで力強くグーと吸いこめば四〇〇CCの新しい空気を一呼吸で、肺に入れることができる。この動作を意識して検査することがある。これが肺活量の検査です。

肺活量が一番大きい年齢は二〇歳から二一歳だといわれています。標準値をかかげておく。

お相撲さんはどうか。横綱北の潮は昭和四三年二月の検査で五三〇〇ミリリットル、大鵬の現役時代は六〇〇〇をこえて肺活量計をこわしてしまった。

つとめて深呼吸しよう、それだけで健康が保障される。

	男	女
20歳代	4,300ml	2,800ml
30 〃	3,900～4,100	2,600～2,700
40 〃	3,500～3,700	2,300～2,500
60 〃	3,000	2,000

日本 VS 英国

大差で日本に軍配

ユ杯組、無傷のスタートを切る

ジャパンオープン'81に先がけて、1月21日、群馬県桐生市において日英親善バドミントン大会が開催されました。

快晴の空の下とはいえ上州名物〝からっ風〟の冷たいコンディションでしたが、各選手とも元気いっぱいのプレーを繰り広げ、地元の熱心なファンを魅了していました。

日本（男子1―1 女子6―0）英国

米倉 2（11―8 11―4）0 ウェブスター

北田 2（11―8 11―0）0 リードビーター

銭谷 2（10―15 15―12 15―0）1 スティブンス

東海林 2（11―6 11―3）0 クラーク

権藤 0（5―15 3―15）2 ジョリー

徳田 2（12―15 15―10 15―11）1 ウェブスター

近藤 2（15―4 15―6）0 リードビーター・チャップマン

高田 2（15―5 15―13）0 サットン クラーク

大塚 東海林

（なお、最終試合に予定されていた飯野・土田組対スティブンス・ジョリー組は、スティブンスが対銭谷戦で負傷したため中止となった）

北田にチョッピリ試練

日英対抗戦としては、一方的に7対1の大差で日本に軍配が上がった。

しかし、一試合一試合の内容では、日本チームも決して楽な戦いではなく、むしろそれぞれに大きなピンチを迎え、それを乗り越える見応えのある白熱した戦いぶりだった。

まず、トップの米倉が英国のサウスポーに苦しめられた。柔らかいリストと長身から繰り出す角度のあるカット、スマッシュを、リズムの出ない米倉が2―8とリードを奪われ苦戦。



勢揃いしたイギリスチーム

銭谷、2年前の雪辱

女子シングルスが幸先よい勝ち星を挙げたのに刺激されたのか、銭谷も日本の第一人者の貫禄を示した試合ぶり。

第1ゲームこそ、スティブンスの〝羽根打ちサービス〟に面くらったように後手後手に回り、終始リードを奪われっぱなしで失ったものの、第2ゲームの2—8から人が変ったよう先手を奪い素晴らしいヘアピンの連続。

それまでは、ネット前の比較的上でとらえたものをクリアーし、比較的下でとらえたものをヘアピンで返球するパターンで苦戦を強いられていた。

が、高い位置からはネット、低い位置からはクリアーする基本的なパターンに戻すことによって、悪循環が好循環となって、久々に銭谷らしい切れ味のあるスピンの利いたヘアピンを生む要因となった。

スティブンスは、12ポイントからは1本も取れず、11ポイントを連続して奪われすっかりリズムを崩してしまった。

ファイナルゲーム、スティブンスがラブで終ってしまったのは、途中で足を痛めたとのことだが、さすがにファイターらしく、いつアクシデントがあったのかわからぬ淡々としたプレー。最後までゲームを続行したのは賞讃されるが、おかげでジャパンオープンに出場できなかったのは気の毒であった。

これで銭谷は、2年前、同じ桐生の地でスティブンスにファイナルで敗れた雪辱を果たしたわけである。

東海林は、新鋭クラークに危なげなく完勝。

ユ杯メンバーとしても期待されるだけに、まずまずのスタートを切った。これからの課題として、タイプの異なった外人選手と数多く対戦すること、いわゆる場数を踏むことが先決であろう。

切れの良いウェブスターのショットに、米倉もたじたじといった様子だったが、徐々に体が暖まったのか持ち前の粘りを発揮して逆転に成功した。

いったん追いつくとあとは実力の差、調子を上げる米倉とは対照的にウェブスターは雑なプレーを繰り返し、8から1ポイントも取れず自滅、第2ゲームも競り合ったのは前半だけで米倉の貫禄勝ちとなった。

18歳でオールジャパンを制し世界へ羽ばたこうとする北田は、これも英国期待の新鋭・リードビーターと対戦した。

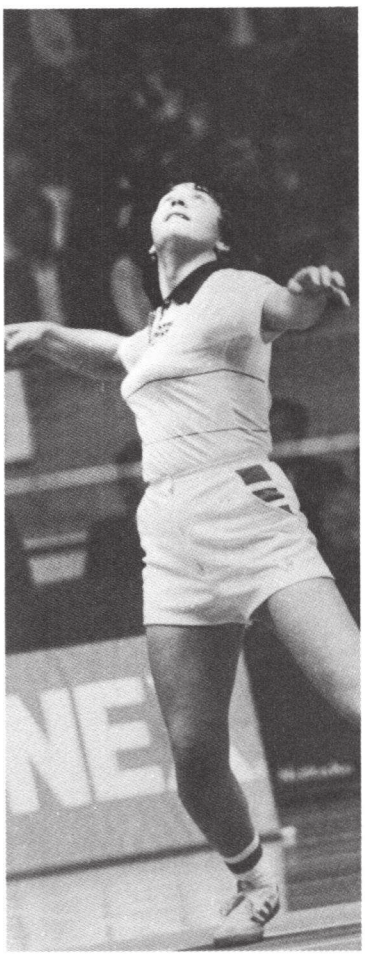
北田は、立ち上がり7—1と大きくリードをしたものの、外人選手としてはよく粘るリードビーターにくい下がられ、7—4、そして10—5から10—8とされ国際経験の浅さを感じさせた。

このあたり、一瞬緊張の色が北田の顔面を走り、若きチャンピオンにアセリがうかがえた。

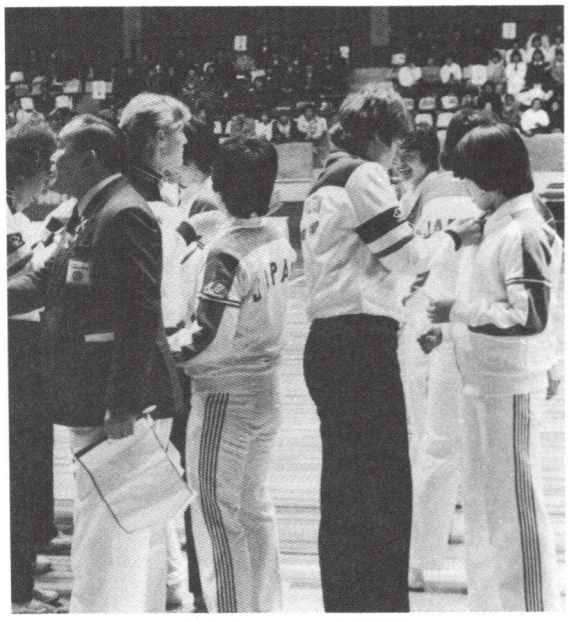
しかし、パワーで優る北田は懸命に打ってこのピンチを脱出、キャリアをパワーで補い、辛くも第1ゲームを逃げ切った。

そして第2ゲームはラブゲーム。

長いラリーでリードビーターを苦しめる、豪快さの中にも計算されたたち密さを込め、パーフェクトなゲーム展開であった。



健闘した新鋭リードビーター



試合前のペナントの交換

徳田・米倉組
幸先よい一勝



身上の粘りをみせた徳田・米倉組

には〝あと一歩〟の感を抱かせるものがあり、観衆からもミスをするとため息がもれる場面を作り出し、内容的には大善戦であった。

この日の大一番は、世界の頂点を争う、徳田・米倉組対ペリー・ウェブスター組の一戦。

第1ゲームは、高い打点からカットの冴えを見せてペリー組がリード、11オールからヘアピンにも切れ味を発揮して押し切り、日本ペアは苦しいスタートを切った。

第2ゲームも、ペリー組は絶妙のヘアピンからチャンスをつかみ、角度のあるカットを決めて8オールからいったんはリードを奪ったが、ここから徳田組のお家芸の粘りが始まった。

ピンチに立つほどに、今まで雑だった守りに緊張感が生まれ、ピタリとミスが無くなったから不思議だ。

ファイナルゲームになっても、かならず顔を出すウェブスターの凡ミスにつけ込んで8—0でチェンジエンド。

途中12—8まで挽回されはしたものの、再び丁寧さをとり戻して新しいシーズンの幸先よいスタートを切った。

いったん当たり出すと、手のつけられないほどの威力を発揮するペリー組だが、攻撃型ペアの宿命、歯車が狂い出すとこれまた止まらないのを、徳田組はジックリと待って〝辛抱のダブルス〟を披露、勝つチャンスを的確にモノにしたのはさすがだった。

徳田・米倉組に続く、ユ杯第2のコンビと目される近藤・高田組は、リードビーター・チャップマン組を一蹴、順調な滑り出しを見せてひと安心。

新コンビで期待される大塚・東海林組は、第2ゲーム終盤にヒヤ汗をかいてどうにか逃げ切ったものの、やはり国際経験の不足と即成コンビの弱点が出てしまった。

しかし、まだ未知の魅力は十分、大塚の巧さと東海林のパワーが発揮されれば、日本〝第3のペア〟いやそれ以上の躍進が期待できる。



華麗なテクニックを披露したペリー・ウェブスター組

場数を踏むという意味においては、日本男子の次代を担うホープ権藤にも同じことがいえよう。

小柄で決め手に欠けることは百も承知の上で戦っていかなければならないのだから、国際舞台での経験はこの上ない試練の場。この日の対戦相手ジョリーは、来日前の台湾オープンの覇者、願ったり叶ったりの典型的なヨーロッパ・タイプだ。

権藤は、点数こそ多くを奪えなかったが、ラリーの一つ一つ

"カワサキ" 装いを一新



スッキリとした新社屋の誕生

社名変更と新社屋の誕生

"カワサキ"の名で親しまれている、バドミントンの総合メーカー「河崎ラケット工業株式会社」が、社名を「カワサキラケット株式会社」と一新すると、かねてより建設中の完成を祝す、落成式の席上発表された。

また、同社の象徴となるシンボルマーク・ロゴも新しくなり、フレッシュな国際感覚あふれるものとなった。

新社屋は、東京・墨田の両国橋にほど近いところにあり、地上8階、地下1階、延べ面積3525㎡、スマートな近代的ホワイト・ビルディング。

8階には、バドミントン・コートのある体育館、2階には同社の全製品が展示され、情報交換の場としてのコミュニケーション・スクエアが設けられた立派なもの。

12月25日の落成式には、バドミントン・硬式テニス・軟式テニス界の名氏約四五〇名が出席、同社社長・河崎一幸氏の抱負「80年代のラケット・スポーツ文化の担い手たらん」とする意気込みを反映してか熱気がムンムン、身動きできないほどの盛況ぶりを見せていた。



熱気あふれる落成式

〈新社名〉
カワサキラケット株式会社
〈新本社所在地〉
〒130東京都墨田区両国1―10―6
☎03―633―7211（大代）

新しいシンボルマークとロゴ

寄稿

選手育成 熊本方式の実態

葦原健身
熊本バドミントンクラブ監督

ここ数年熊本は、若い選手諸君の活躍があって、バドミントン王国の名を頂戴し、一大旋風を巻き起こしている。

そしてその秘密は、学校教育から切り離したところの、社会体育方式にあるといわれている。

いささか手前味噌になるとは思うが、その実態について説明してみたい。

(1)「熊本県スポーツ界の背景」

昭和45年、熊本県教育委員会は「学校運動部の活動は教師の勤務時間内に行なうこと」とし午後5時以降の活動は、学校管理外の社会体育に切り替え、学外者によるクラブの運営・指導を行なうと通達を出した。

組合側から、労働基準法通りの勤務条件の励行、要望、あるいは中学校運動部事故の責任の所在と補償が、学校設置者、校長、教師にあるとの判決で「奉仕して責任では面倒をみきれない」との理由で、その活動は学校から地域社会へ戻されたのである。

この通達によって県下の小、中学校部活動のほとんどが、また、公立高校でも相当な範囲で社会体育として行なわれるようになった。

そして、これがバドミントンの普及をやり易くした。

とはいうものの、考えると学校部活動でありながら、午後5時までは教育活動で、それ以降は教育活動ではないというのは、全くの責任逃れであり、筋の通らない話以外のなにものでもない。

ために大部分の学校は、県教委が指導、推進したところの地域単位、競技単位組織への移行には消極的で、学校単位社会体育組織として止まり、真の社会体育とは成り得なかった。

しかしながら、指導を学外専門指導者に任せた結果、教師の指導不足は解消され、県教委をして「熊本方式社会体育の勝利」とまで言わしめるようになった。

そうして、独特の方式として成果を上げている最中の昭和52年、教員優遇の人確法第三次分として、勤務時間外指導に部活動手当が支給されることとなった。

そこで県教委は、「学校体育とし、手当や公務災害法の適用を受けねば先生方は不利になってしまう」との見解で昭和54年再び方針を百八十度転換、地域社会から学校に戻すことにした。

(2)「実情と誤解」

それでは、熊本方式社会体育（小さいころからの一貫指導）はどこでなされているのかということになる。

本県の勢力分布は、熊本クラブ50%、八代クラブ24%、桜山中22%、玉名クラブ4%となっている。

熊本県ジュニア層は、熊本クラブ、八千代クラブ、桜山中勢の三組織によって支えられているということができよう。

また選手の所属組織別は、社会体育78%、学校体育22%という比率になり、熊本県躍進の原動力は「社会体育」にあり、といわれるのも見当外れではない。

ただ、熊本の社会体育方式というものについては、かなりの誤解もあるようなので整理してみたいと思う。

まず第一に、熊本方式社会体育は完成したかの印象を与えているが、まだ完成していず、一貫指導体制は特定クラブにおいて、ようやく高校生までつながったにすぎない。

第二に、熊本県を支える熊本クラブ、八千代クラブは昭和45年の県教委通達による、学校体育から社会体育への移行が「渡りに船」となり、生れたかのようにいわれているが、学校部活動の転換とは関係ない。

第三に、熊本県は県協会あげて社会体育の育成を図ったとされているが、その言葉は多少、片腹痛い面があり、一部クラブ指導者の個人的、私的犠牲によるところが大きい。

第四に、今日の成果は、他県に先駆けて、小学生層に手を付けたためであり、あくまでも一時的なパール・ハーバーと思われる。

したがって熊本方式とは何だ県スポーツ界が大揺れに揺れ学校関係者や社会体育関係者が、ハムレットのように悩んだことはいうまでもない。

このような転換の道をたどり、熊本県は今日に至っている。

!と言われても、別段特別な指導をしたわけでもないし、特効薬があるわけでもない。

ただ、小さな子供達を、10年間ほど一つのクラブで、放牧したというのが適当だろう。

指導者に、子供と遊んでやる気持と、学校の名前や学制にとらわれない思考があるならば、どこの県でも、だれにでも可能だと考えられる。

要は発想の転換ではなかろうか……。

(3)「小学生への普及」

熊本県ジュニア選手の育成は特定クラブの手によるところが大きく、県協会がそれに乗っかったのは周知のとおりである。

しかしながら協会が、その底辺拡大といったものに手をこまねいていたわけではない。

熊本県の成績は、小学生参加者数に正比例して上昇してきている。

現在県協会は、年8回大会を主催し普及を計っている。

そしてその陰には、県協会の努力もさることながら、各地の支部協会、あるいは社会体育を推進される熊本日日新聞社の御協力があることを付け加えておきたい。

苦節12年とでもいおうか、今日でこそ「熊本」「熊本」であるが、昭和44年当時は惨めなものだった。

敗け出ると敗け。

選手のみならず、指導者まで「どうせ自分達は、北陸勢や大阪には勝てっこないんだ」という敗北者思想がはびこっていた。

私も、高校生を率いて臨んだが、結果は同じだった。

「何故、熊本は勝てないのか?。」答えは簡単だった。

「キャリアが短いからだ…」

あれから12年たった今日、熊本においては、ラケットを握るのは小学生からが常識となっているが、当時は高校生からが普通であり、中学生でさえ早すぎるという迷信があった。

私はこう考えた。「強い県が中学からしているなら、熊本は小学生からだ」と……。

この単純な思考は、10年後開花した。

小学生への指導・普及にあたっては、「あまり小さいころからやらせると、子供の発育に害になるのではないか」などは考えもしなかった。

そしてそうした考えは、取り越し苦労にすぎなかった。

また、最初から一貫指導といったものに、確固たる信念を持っているわけでもなかった。

ただ、資金面や施設面の確保あるいは学制問題から必要に迫られたというのが適当であろう。

こうして私は、我がバドミントンの師伊藤基記先生（熊本女子大教授・当時県協会理事長）の、「種をまき、苗を育てよ」の言葉に共鳴し、熊本バドミントンクラブ（当初、西合志中央クラブ）の創始、県バドミントン協会小学部の担当となり、バドミントンに狂うことになった。



昨年10周年を迎えた熊本クラブ

昭和55年度

香川県総合バドミントン選手権大会

シングルスは吉川と山田が優勝

峯夫妻、ミックスで“熱～い”ベスト4

バドミントン日本リーグ、ジャパンオープンと、ビッグイベントが相次ぐ中、1月11・18日の両日、香川県では昭和55年度香川県総合バドミントン選手権大会が開催されました。

香川県はご存知のように、実業団では高松琴平電鉄、百十四銀行、高校では高松商業、善通寺第一、高松中央高など名門チームの多いバドミントンの盛んな土地、各種目に熱戦が繰り広げられました。

なお、混合複に3位となった峯・峯組は、峯寛文（高松商業―法政大―現在高松市立弦打小学校教員、24歳）さんと、千春（旧姓橋本、岡山山陽女―東京女子体育大―岡山市役所・23歳）さんの新婚ペア。

学生時代に知り合って、1月3日に結婚されたばかり、優勝こそ逸しましたがそのコンビぶりは優勝者に優るとも劣らないものだったとか、今後の活躍を大いに期待したいものです。

▽男子団体準決勝
高松水鳥クラブ3―0香川県庁
讃岐クラブ3―0坂出工業高OB

▽同決勝
高松水鳥クラブ3―1讃岐クラブ（2連勝2回目）

▽女子団体準決勝
高松琴平電鉄3―0善通寺一高
百十四銀行3―0高松中央高

▽同決勝
高松琴平電鉄3―1百十四銀行（8連勝8回目）

▽男子単準決勝

吉川2	15	15	4			
	15	9		0	杉上	
峯2	15	15	6			
	15	8		1	辻本	

▽同決勝

吉川2	15	15	11			
	15	4		1	峯	
四宮2	11	5	11			
	1	11	1	1	山内	

▽女子単準決勝

山田2	11	11				
	4	7		0	永井	

（吉川は6年ぶり6回目）

▽同決勝

山田2	11	12				
	8	9		0	四宮	

（山田は2連勝2回目）

▽男子複準決勝

杉上						
辻本2	15	15				
	7	9		0	木下	
吉川						
峯2	15	15				
	6	6		0	金崎	
					松村	

▽同決勝

杉上						
辻本2	15	15	8			
	4	12	15	1	吉川	
					峯	

（杉上・辻本組は初優勝）

▽女子複準決勝

山田2	17	14				
	5			0	山内	
磯崎					佃	
平田						
四宮2	15	17	15			
	11	15		0	小野	
					山下	

▽同決勝

山田						
磯崎2	15	15				
	11	9		0	四宮	
					平田	

（山田・磯崎組は初優勝）

▽混合複準決勝

松村						
小野2	15	9	15			
	8	15	2	1	峯	
					峯	

▽同決勝

金崎						
山下2	15	18	7			
	5	15	15	1	杉上	
					山田	

▽同決勝

金崎						
山下2	17	15				
	14	13		0	松村	
					小野	

（金崎・山下組は初優勝）

バドミントン界　The Badminton World

1981年 2月号　©1981年　通巻第136号

写真植字／サカキバラ写植
印刷・製本／根岸印刷

定価＝300円　1年間予約購読料＝3000円（送料共）
振替＝東京8－10737

昭和56年2月15日発行
編集兼発行人／赤星三樹
発行所／赤星出版株式会社
東京都目黒区鷹番2－8－22－205　〒152
☎03－712－6952

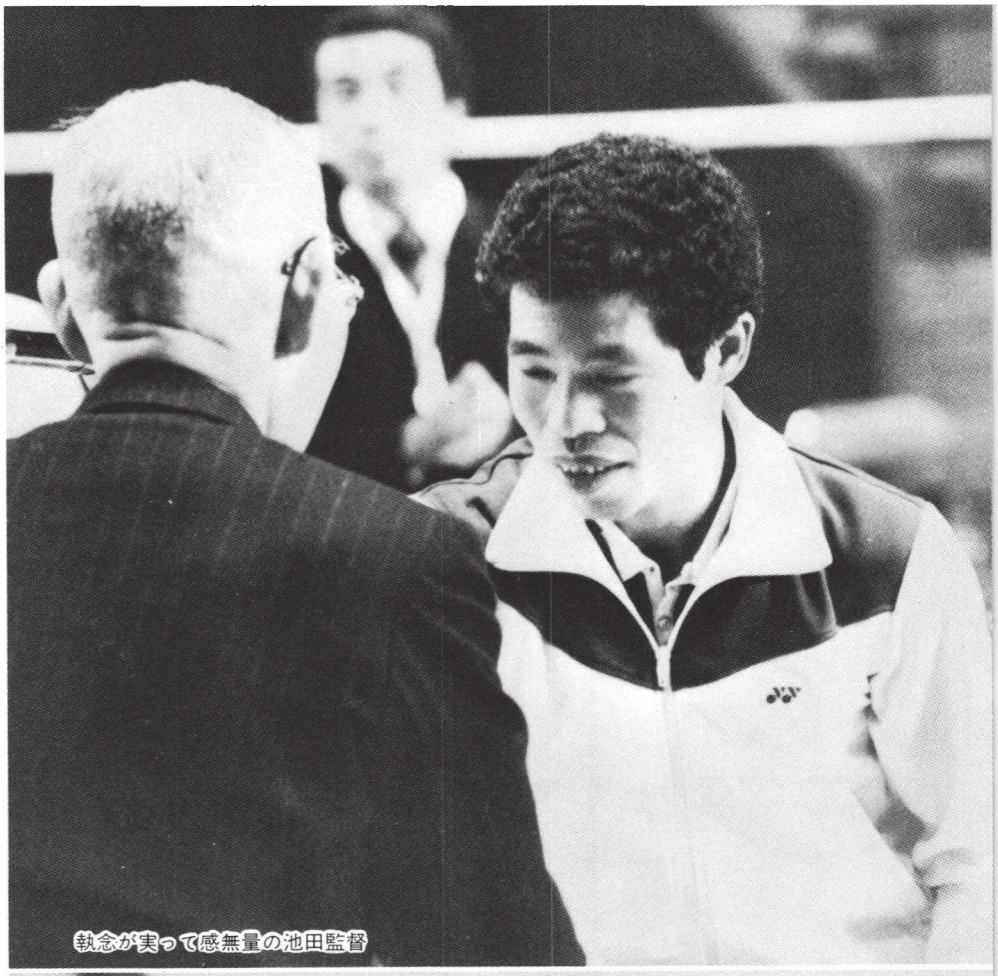
◇本誌の記事・写真等を許可なく転載・複写することを禁じます

男女そろって初優勝!!

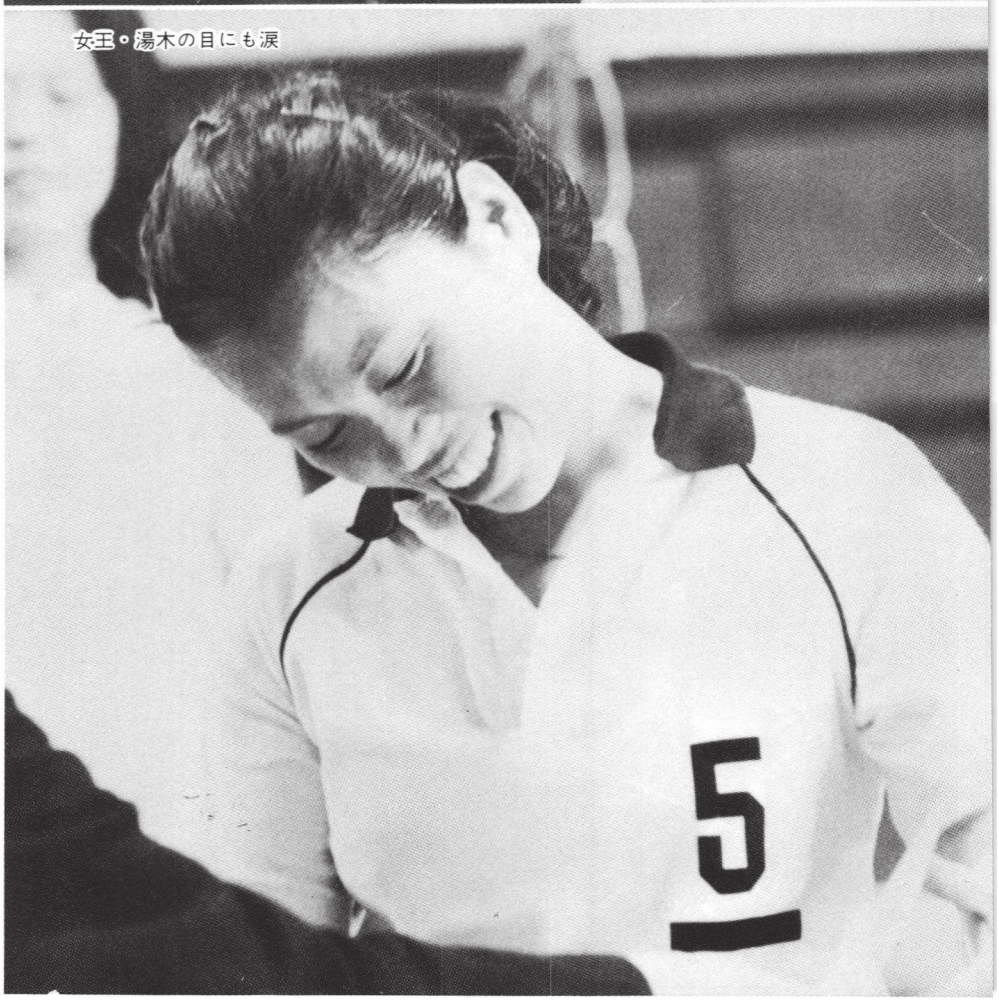
●電電東京

バドミントン日本リーグ

●カワサキラケット



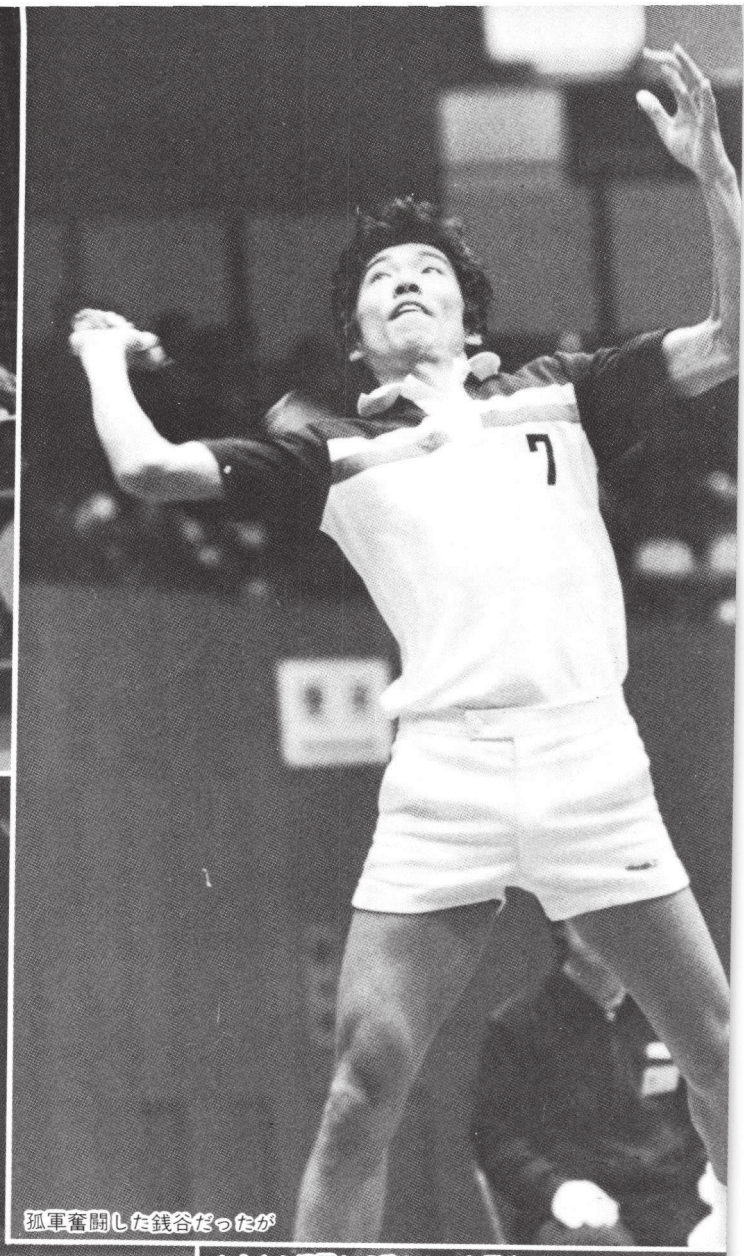
執念が実って感無量の池田監督



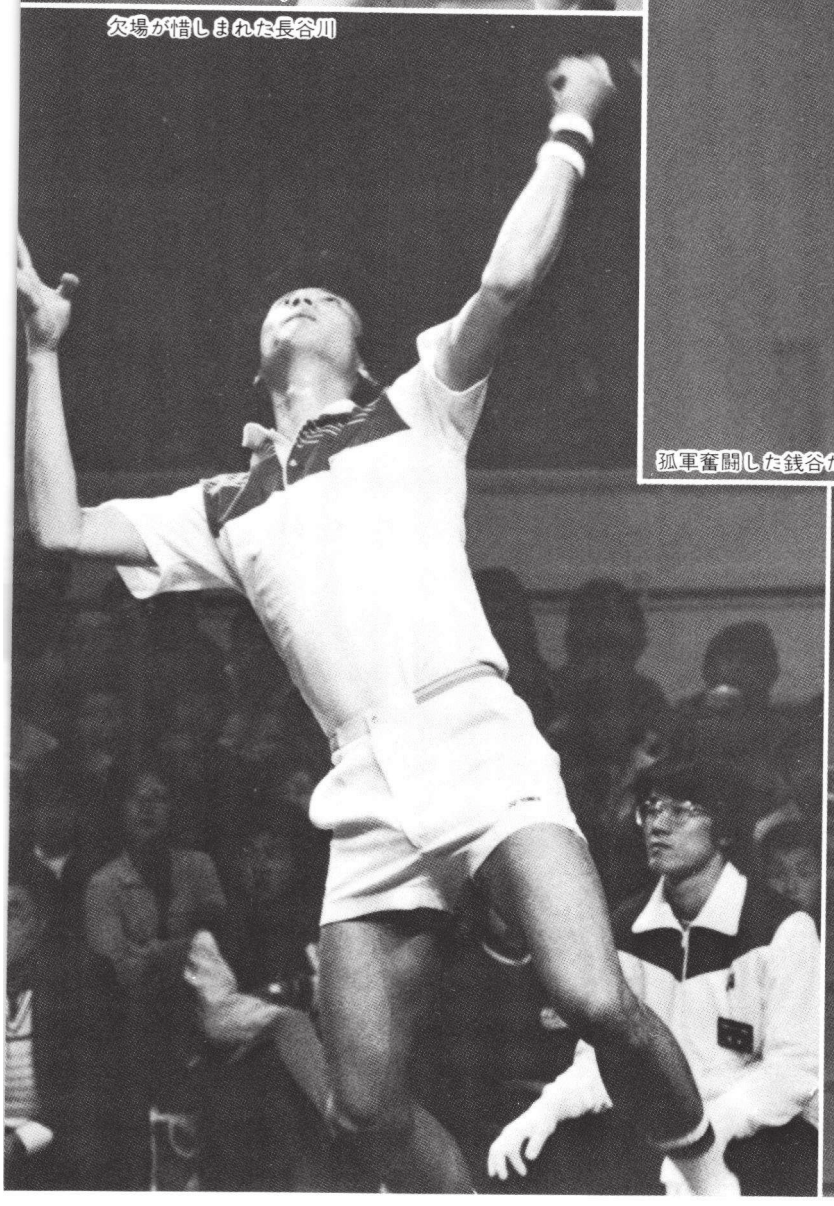
女王・湯木の目にも涙



一番飛躍したのは米



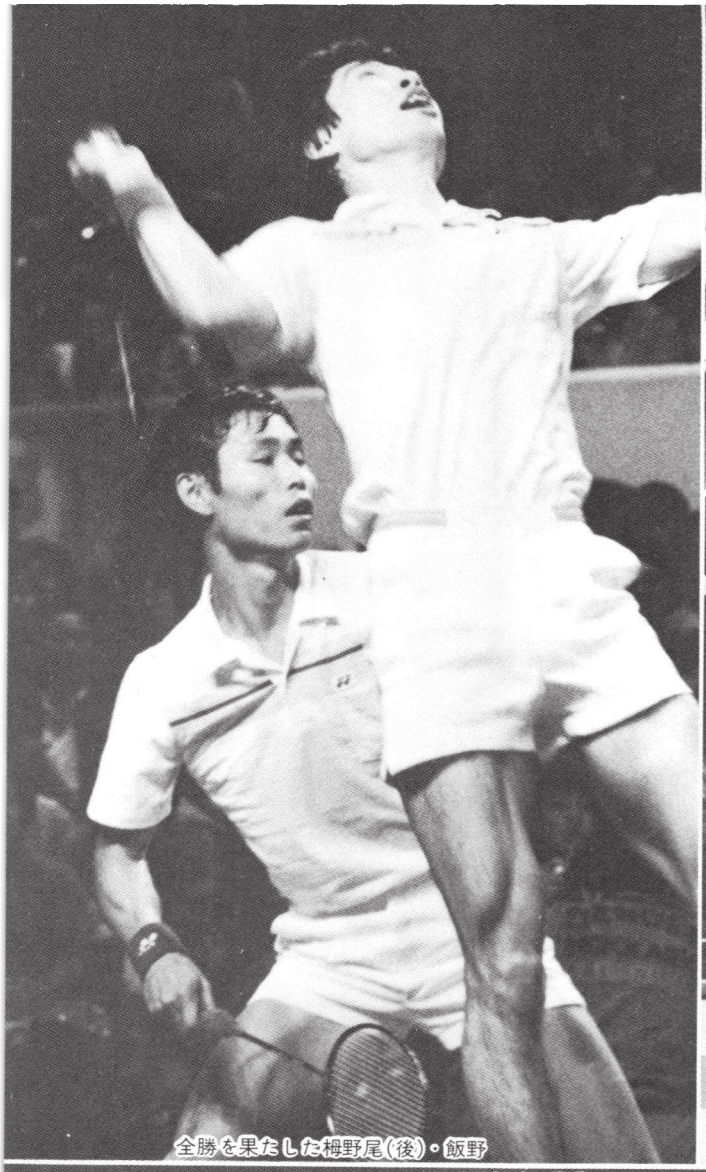
孤軍奮闘した銭谷だったが



欠場が惜しまれた長谷川



もう少し活躍して欲しかった西山



全勝を果たした梅野尾(後)・飯野

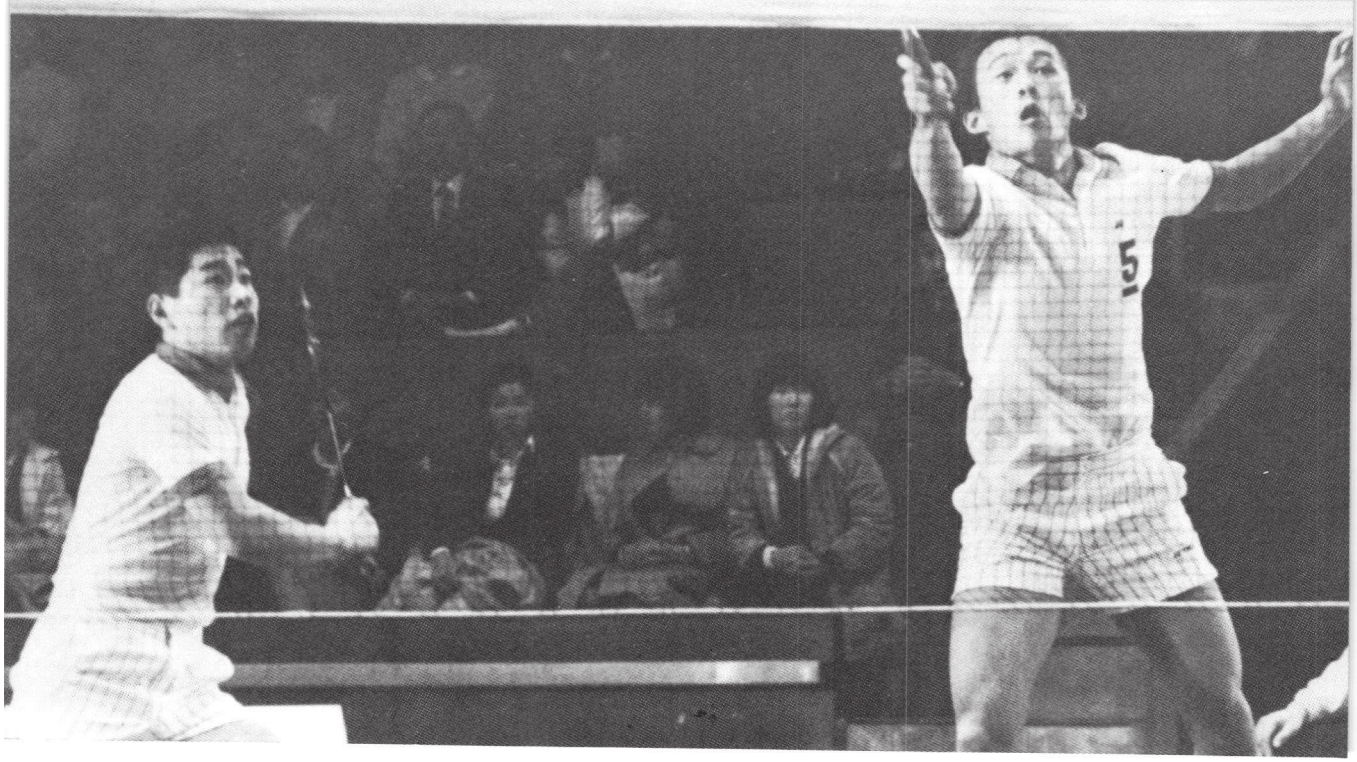


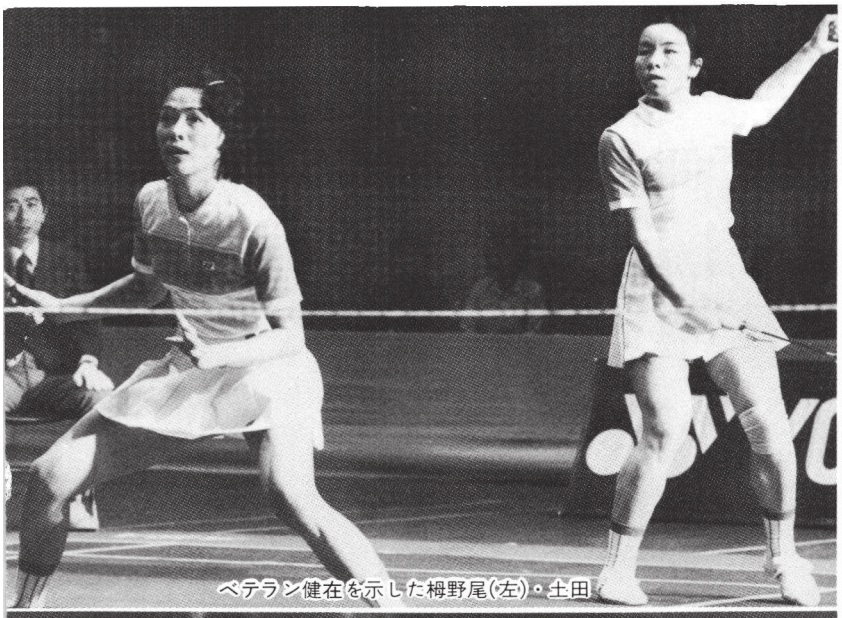
「だめだコリャ」「なにいうとるんや」木村、遠藤、赤塚監督(左から)



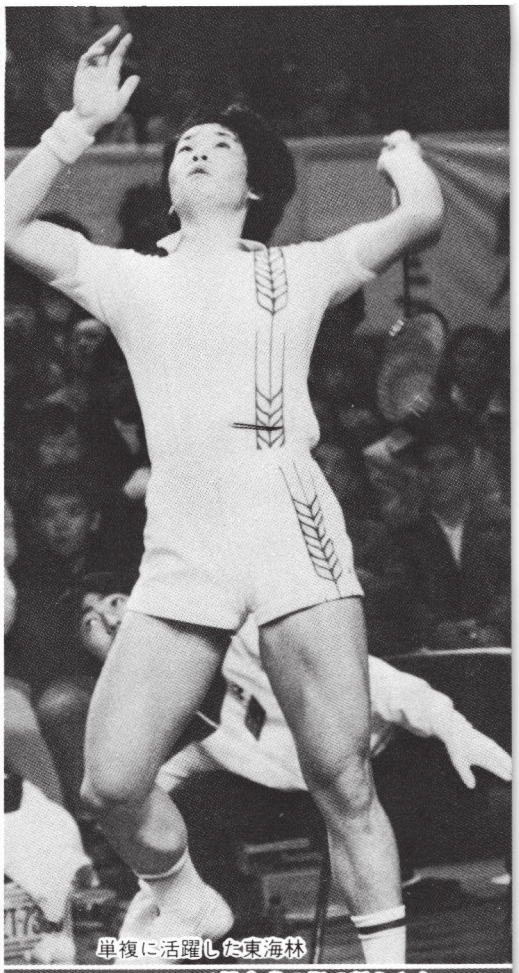
「これでどうだー!」久郷(後)・宮本

ガッツ・コンビの上原(右)・権藤



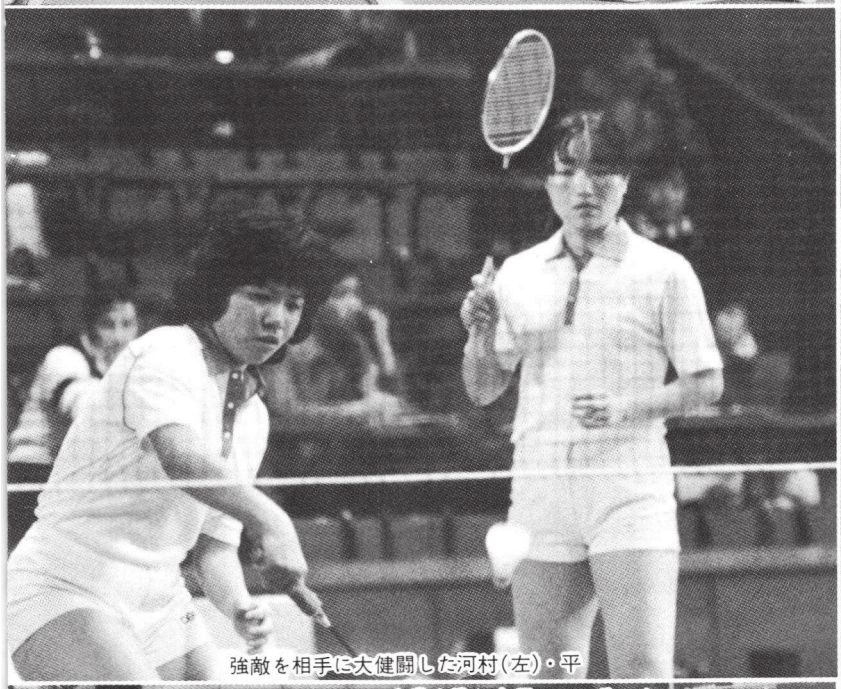


ベテラン健在を示した梅野尾(左)・土田



単複に活躍した東海林

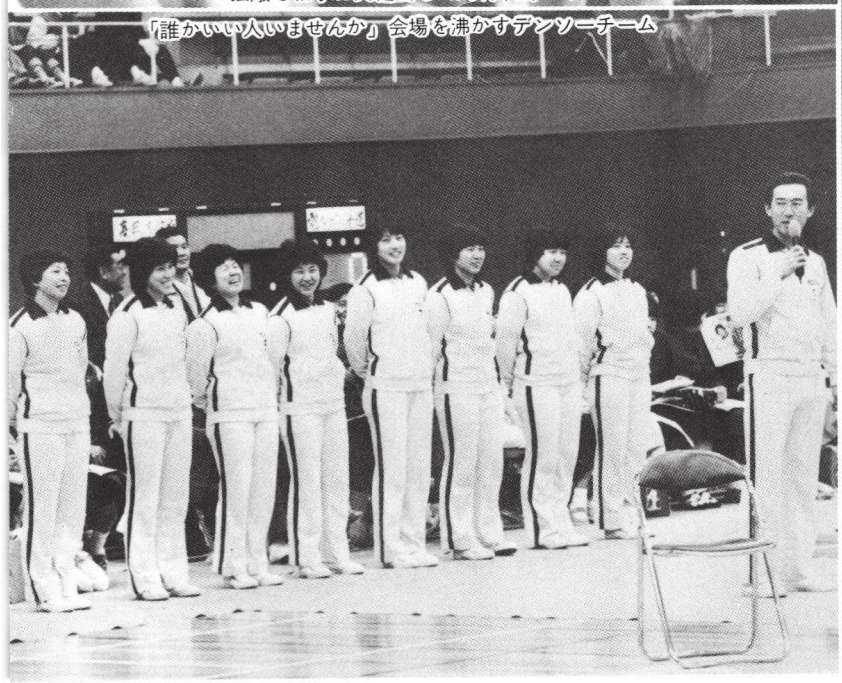
これは誰？鼻の形で判ります



強敵を相手に大健闘した河村(左)・平



「誰かいい人いませんか」会場を沸かすデンソーチーム





DÉFI

イタリアからColor Liberation最新版の到着。

新鮮デフィ、新発売。

正統コットンホワイトのぼく。ところが、きょうのパートナーは、イタリアから新着のデフィのポロ。伝統の優れた機能性に、ファッショナブルなイタリアンフィーリングをコーディネイトしたNewデフィとは！ 鮮やかなイタリアンカラーが、ときにローマの華麗となって、ときにフィレンツェの繊細となって、コートを舞った。きみは、コートのウィナーになる前に、恋のウィナーになってしまうぞ。

kawasaki
カワサキラケット株式会社

リム・スイ・キング
Liem Swie King
'78・'79全英バドミントン選手権チャンピオン



B-8500 FULL CARBON SHAFT RACKET
Carbonex8
〈カーボネックス・エイト〉:色/イエロー・オレンジ・グリーン
重量表示/U(99g~95g) 2-U(94g~90g)

「惚れこめ。」

リム・スイ・キングの片腕。ヨネックス。

全英バドミントン選手権シングルス2連勝。ワールドカップ'79・'80、ここでも2連勝というゆるぎない実績を誇るリム・スイ・キングとヨネックスががっちりと手を結んだ。今、私の手の中にあるのはヨネックス。文字通り私の片腕になった。これで勝つ自信がますますわいてきた。と語るリム。フルカーボンシャフト、特殊アルミ合金フレームの超軽量ラケットB-8500にすっかり惚れこんでいる。100g以下という軽さの記録をたて、ラケットは軽くするとヤワになるという常識をも破ったヨネックス。勝者リム・スイ・キングにふさわしいラケット。惚れがいありです。

YONEX®